

# 第20回川崎病全国調査成績

特定非営利活動法人  
日本川崎病研究センター  
川崎病全国調査担当グループ

[連絡先] 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1  
自治医科大学公衆衛生学教室気付  
川崎病全国疫学調査事務局  
連絡担当 屋代真弓・上原里程

TEL 0285-44-6192  
FAX 0285-44-7217

2009年9月

## 第 20 回川崎病全国調査成績

### はじめに

1970 年以来 2 年に 1 回の間隔で 19 回にわたって、川崎病全国調査が行なわれてきた<sup>1-33)</sup>。今回 2007 年～ 2008 年の 2 年間の患者を対象に実施した第 20 回川崎病全国調査の成績がまとまった。2 年間の調査成績より、報告患者数、初診年月分布、性・年齢分布、地域分布、診断、家族歴、再発例、死亡例、急性期の心障害例、後遺症例、初診時病日、ガンマグロブリン治療開始時病日、容疑例主要症状の数、ガンマグロブリン治療、追加治療（ガンマグロブリン投与、ステロイド投与、infliximab 投与、免疫抑制剤投与）、心臓以外の合併症などの疫学像並びに臨床像を明らかにしたので、これまでに得られた 36 年間の調査成績と比較しながらその概要を報告する。

### I. 方法

第 20 回川崎病全国調査は、2007 年 1 月 1 日より 2008 年 12 月 31 日の 2 年間に小児科を標榜する 100 床以上の病院、および小児科のみを標榜する 100 床未満の専門病院を受診した川崎病初診患者を対象に郵送（一部、インターネットサーベイランス参加の施設にはメールでも依頼）により実施した。（添付の調査票様式参照）

施設の選定は、前回使用した医療機関のリストに、その後現在までの変更を更新したものをを用いた。対象候補施設数は 2,150 か所であった。

本調査は、自治医科大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（2008 年 11 月 11 日、疫 08-39）。

### II. 調査結果

#### 1. 回収率

依頼状、調査票等を送付した 2,150 施設のうち、廃院等の連絡があった 48 施設を除く 2,102 施設を調査対象とした。回答は 1,540 施設から得られ、回収率は 73.3 % であった。そのうち、ホームページより調査票をダウンロードして Excel ファイルで回答した施設が 95 か所、インターネットサーベイランス参加施設で登録済みの還元ファイルを使用して回答した施設が 50 か所であった。なお、サーベイランス参加施設でも調査票郵送により協力したところもある。

回答があった 1,540 施設のうち、患者報告があった施設は 972 施設（回収施設の 63.1 %）であった。回収率は、都道府県によって 52.0 %～ 87.5 % の開きがみられた。

#### 2. 年次推移

今回の調査で報告された 2 年間の患者数は、2007 年 11,581 人、2008 年 11,756 人のあわせて 23,337 人であり、前回の調査と合わせると 4 年連続で 1 万人以上の患者が報告された。

性別患者数は、男 13,523 人、女 9,814 人で、2 年間平均の罹患率は 0-4 歳人口 10 万対 216.9（男 245.4、女 187.0）であった。

患者数の性比（男/女）は 1.38、罹患率の性比は 1.31 で男の方が多かった。過去 19 回に報告された患者を含めると 2008 年 12 月末までの患者数は、合計 249,019 人（男 144,350 人、女 104,669 人）になった。

川崎病患者数の年次推移は、表 1、図 1 に示すとおりである。1979 年、1982 年、1986 年の 3 回にわたる全国規模の流行がみられた。その後、年次とともに増加傾向が続き、2000 年の患者数は第 1 回目の流行年（1979 年）の 1.2 倍となり、2005 年には 10,000 人を超え、さらに 2007 年には 11,000 人を超え、近年になって急勾配で増加している。

罹患率の年次推移をみると、表 1、図 2 に示すように、さらに近年の増加傾向が目立ち、0-4 歳人口 10 万対罹患率は 2007 年は 215.3、2008 年は 218.6 であり、両年ともに史上最高値となった。

#### 3. 月別推移

最近 8 年間の月別、性別患者数を図 3 に示す。患者数は各年とも同じような季節変動を示し、すべての月で男が多くなっている。また、10 月は少なく、1 月は多かった。特に 2006 年からの 3 年間の 1 月は以前に比べて極端に多くなっていた。また、夏にも若干の患者数の増加が観察された。

#### 4. 性・年齢分布

患者数の性・年齢別分布をみると、3歳未満の者の割合は全体の65.9%（男68.7%、女64.1%）であった（表2）。2007年、2008年平均の性・年齢別罹患率では、男女とも月齢9-11か月にピーク（人口10万対男449.4、女305.5）をもつ一峰性の山（女は月齢12-14か月にやや減少）がみられた。前回実施した2005年、2006年の成績では月齢6-8か月にピークがみられ、高年齢へのわずかなずれがみられた。罹患率の性比は、月齢12-14か月の者で最も大きく1.56であり、月齢0-2か月の者で最も小さく1.02であった（図4）。

#### 5. 地域分布

2年間の患者住所都道府県別報告数が最も多かったのは東京で2,358人、次いで神奈川1,921人、愛知1,706人、大阪1,620人の順であった。2007年、2008年の年次別都道府県別罹患率を0-4歳人口10万対の割合で計算した（都道府県別罹患率の分母は、2005年国勢調査人口を使用し、全国の罹患率は各年次の推定人口を用いて計算した。ただし2008年は前年の人口を使用）。両年とも罹患率が高いところは、栃木、東京、神奈川などであった。2007年の罹患率が高いところは、和歌山、徳島、群馬などである。2008年の罹患率が高いところは、福井、奈良、熊本などであり、局地的に患者数の増加があったと考えられる。2年間とも低いところは、岩手、沖縄、長崎などであった（表3）。

2005年～2008年の各年について、都道府県別罹患率の地図を作成した（図5）。都道府県によって回収率が異なるので、未回収施設も同じ患者数があると仮定して回収率を100%に補正して、0-4歳人口10万対罹患率の地域差を示した。2005年に罹患率の高い地域は、和歌山、大分、石川と関東、近畿、九州の一部の県であったが、2006年にはそれらの周辺地域に拡がり関東甲信越では罹患率の上昇が目立った。2007年には、関東甲信越のみでなく近畿、四国でも罹患率の上昇がみられ、東北、北海道でも高い罹患率が観察されるようになった。この傾向は2008年にはより顕著になり、さらに中国、四国、九州南部に高率地域が広がった。

#### 6. 診断

診断基準への一致度をみると、定型例79.8%（男79.8%、女79.8%）、不定型例2.8%（男3.1%、女2.4%）、容疑例17.4%（男17.1%、女17.8%）であった。前回より定型例、不定型例が減少し、容疑例が増加した。年齢別にみると、2歳未満の若年齢では容疑例の割合が比較的高く、また5歳以上の年長児でもその割合が高かった（表4）。

なお、定型例（調査票では「確実A」とした）は「川崎病診断の手引き 改訂版」（2002年2月に診断の手引きが改訂され、第17回全国調査から改訂5版を使用）に示された6つの主要症状のうち5つ以上の症状を伴う者、不定型例（「確実B」）は4つの症状しか認められなくても、経過中に断層心エコー法もしくは、心血管造影法で、冠動脈瘤（いわゆる拡大を含む）が確認され、他の疾患が除外された者をいう。また容疑例（「容疑」）は上記のいずれにも合致しないが、主治医が川崎病の疑いありと診断して全国調査に報告した者をいう。

今回の調査では、容疑例について主要症状の数を調査項目に加えたが、その結果、主要症状は4つが最も多く65.4%、次いで3つ26.1%、2つ5.9%、1つ0.8%、不明1.8%であった。性別にみても同様の割合であった。年齢別には、10歳以上を除き高年齢になるほど3つ以上の症状を持つ患者の割合が高かった（表5）。

#### 7. 家族歴

同胞例ありの割合は報告患者中1.4%（男1.4%、女1.5%）であった。

両親のいずれかに川崎病の既往歴ありは165人（男103人、女62人）報告され、報告患者中0.7%（男0.8%、女0.6%）であった。既往歴を有する両親の内訳は父76人、母85人、不明4人であった。これらは前回報告（102人（父45人、母55人））よりも多かった。

#### 8. 再発例

再発例の割合は報告患者中3.5%（男3.6%、女3.4%）であった。

性・年齢別にみると男女とも5歳までは年齢とともに再発患者の割合が増加していた。

## 9. 死亡例

死亡例は、2年間で6人（男5人、女1人）報告され、致命率は0.03%であった。死亡例の初診時年齢は4人が6か月未満の若年児で、そのうち3人が発病後1か月以内の急性期の死亡であった。診断別には5人が定型例であった（表6）。

## 10. 心障害例

心障害については、発病後1か月以内に出現した「急性期」と1か月以降も残存する「後遺症」に分けて調査を実施した。

報告患者中、急性期の割合は11.0%（男12.5%、女9.0%）、後遺症の割合は3.2%（男3.9%、女2.3%）であり、急性期の割合は前回よりも減少した。今回も後遺症は急性期に比べて男女とも3分の1以下に減少していた。両者とも男が高率を示し、性・年齢別にみると男女とも若年児と高年児が高く、急性期、後遺症ともに1歳に窪みをもつゆるやかなU字型のカーブを示していた（図6）。どちらの割合も、第15回調査（1997-1998年）から第20回調査（2007-2008年）の間に半分に減少していた（図7）。

報告患者に占める急性期の心障害種類別割合は冠動脈の拡大8.54%、弁膜病変1.64%、瘤1.21%、巨大瘤0.25%、狭窄0.03%、心筋梗塞0.01%であった。前回と比べて、狭窄以外はいずれも減少した。性別にみると弁膜病変以外すべて男で高かった。出現率を2歳未満と、2歳以上の2区分に分けてみると、巨大瘤、冠動脈の拡大、狭窄、弁膜病変の出現率は2歳以上で高率にみられた。

報告患者に占める後遺症の種類別割合は冠動脈の拡大1.86%、瘤0.81%、弁膜病変0.49%、巨大瘤0.25%、狭窄0.02%、心筋梗塞0.01%であった。性別にみると、すべて男で高かった。特に巨大瘤は、男が女の3.2倍の出現率であった。出現率を2歳未満と、2歳以上の2区分に分けてみると、巨大瘤、瘤、狭窄、弁膜病変の出現率は、2歳以上で高率にみられた。特に巨大瘤は、2歳以上が2歳未満の1.7倍の出現率であった。

心障害の種類別の観察では、瘤、冠動脈の拡大、狭窄、弁膜病変は、急性期に比べて後遺症では減少していたが、巨大瘤では減少がみられなかった（表7）。

## 11. 初診時病日およびガンマグロブリン治療開始時病日

患者の初診日は第4病日が最も多く24.6%であり、第4病日までに受診した者は67.0%であった。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、第4病日までに受診した者は2歳未満では71.4%を占めていたが、2歳以上では62.4%であり、2歳以上の年長児の受診が遅れる傾向がみられた。

ガンマグロブリンの投与開始日は第5病日が最も多く37.5%であった。年齢別にみると、2歳未満に早く投与を開始する傾向がみられ、第5病日までに投与を開始された者の割合は2歳未満では69.3%、2歳以上では59.6%であった（表8）。

## 12. ガンマグロブリン治療

ガンマグロブリン治療を受けた者は87.0%（男87.4%、女86.6%）であった。

ガンマグロブリン1日あたりの投与量は、1900-2099mg/kgの者が最も多く77.0%、次いで900-1099mg/kgが19.7%であった。投与期間は1日が最も多く87.5%、次いで2日11.6%であった。ガンマグロブリンの1日投与量と使用日数から計算した使用総量は、1900-2099mg/kgが最も多く88.5%、次いで900-1099mg/kgが8.5%、1700-1899mg/kg、2100mg/kg+がともに1.1%であった。前回に比べてさらに2000mg/kg×1日の短期間大量投与が増加し、治療を受けたものの9割近くを占めていた（表9、図8）。

## 13. 追加治療

追加治療（ガンマグロブリン投与）の割合は、初回ガンマグロブリン使用例のうち16.5%であった。診断別では定型例が多く、男女別では男で多かった。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、2歳以上で多かった。

追加治療（ステロイド投与）の割合は全体の5.0%であった。診断別では不定型例がやや多く、性別では男で多かった。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、2歳以上で多かった。

追加治療(infliximab投与)の割合は全体の0.4%であった。診断別では不定型例でやや多く、性別では男で多かった。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、2歳以上で多かった。

追加治療(免疫抑制剤投与)の割合は全体の0.2%であった。診断別では定型例が多く、性別では男で多かった。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、2歳未満で多かった(表10)。

#### 14. 心臓以外の合併症

今回の調査ではじめて心臓以外の合併症を調べた結果、肝障害(入院時のASTとALTが共に50IU/L以上)27.4%、胆嚢腫大1.6%、関節痛または関節炎1.1%、無菌性髄膜炎0.55%、麻痺性イレウス0.45%、DIC0.081%、顔面神経麻痺0.0043%であった。

診断別では関節痛または関節炎、無菌性髄膜炎、麻痺性イレウス、DICは不定型例でやや多く、肝障害、胆嚢腫大は定型例で多かった。

性別では関節痛または関節炎、無菌性髄膜炎、肝障害は女で多く、胆嚢腫大、麻痺性イレウスは男で多かった。

年齢を2歳未満と2歳以上の2区分にして観察すると、関節痛または関節炎、胆嚢腫大、麻痺性イレウス、DICは2歳以上で多く、無菌性髄膜炎、肝障害は2歳未満で多かった。

顔面神経麻痺は1例のみ(6歳の男の定型例)にみられた(表11)。

### III. 要約

1. 2年間の報告患者数は23,337人(2007年11,581人(男6,684人、女4,897人)、2008年11,756人(男6,839人、女4,917人)性比1.38)であり、2008年12月末までの患者数は、合計249,019人(男144,350人、女104,669人)になり、2000年以降患者数は急上昇を続けている。
2. 0-4歳人口10万対罹患率は、2007年215.3(男242.6、女186.6)、2008年218.6(男248.2、女187.4)であった。両年とも罹患率は、史上第1位となった。
3. 最近8年間(2001-2008年)の月別患者数は男女とも、10月が少なく1月が多かった。またすべての月で男が多かった。特に2006年以降の1月は以前に比べて極端に多くなっていた。
4. 2007年、2008年平均の性・年齢別罹患率では、男女とも月齢9-11か月にピーク(人口10万対男449.4、女305.5)をもつ一峰性の山がみられた。罹患率の性比は、月齢12-14か月で最も大きく1.56であった。
5. 最近4年間の都道府県別罹患率の地域差をみると、2005年に罹患率の高い地域は、和歌山、大分、石川と関東、近畿、九州の一部の県であったが、2006年にはそれらの周辺地域に拡がり関東甲信越では罹患率の上昇が目立った。2007年には、関東甲信越のみでなく近畿、四国でも罹患率の上昇がみられ、東北、北海道でも高い罹患率が観察されるようになった。2008年には、さらに中国、四国、九州南部にも高率地域が拡がった。
6. 診断基準への一致度をみると、定型例79.8%、不定型例2.8%、容疑例17.4%であった。
7. 容疑例の主要症状の数は4つが最も多く65.4%、次いで3つ26.1%、2つ5.9%、1つ0.8%、不明1.8%であった。性別にみても同じ傾向であった。
8. 同胞例の出現頻度は1.4%、再発例の出現頻度は3.5%であった。両親のいずれかに川崎病の既往歴がある者の割合は0.7%であった。
9. 死亡例は2年間に6人(男5人、女1人)報告され、全体の0.03%を占めていた。
10. 急性期の心障害の割合は11.0%であった。種類別の割合は、冠動脈の拡大8.54%、弁膜病変1.64%、瘤1.21%、巨大瘤0.25%、狭窄0.03%、心筋梗塞0.01%であった。前回と比べて、狭窄以外いずれも減少した。弁膜病変以外すべて男が高く、巨大瘤、冠動脈の拡大、狭窄、弁膜病変の出現率は2歳以上で高率にみられた。
11. 後遺症の割合は3.2%であった。種類別の割合は、冠動脈の拡大1.86%、瘤0.81%、弁膜病変0.49%、巨大瘤0.25%、狭窄0.02%、心筋梗塞0.01%であった。すべて男で高く、巨大瘤、瘤、狭窄、弁膜病変の出現率は、2歳以上で高率であった。瘤、冠動脈の拡大、狭窄、弁膜病変は、急性期に比べて後遺症では減少していたが、巨大瘤では減少がみられなかった。
12. 患者の初診日は第4病日が最も多く24.6%であり、第4病日までに受診した者は67.0%であり、2歳以上の年長児の受診が遅れる傾向が観察された。
13. ガンマグロブリンの投与開始日は第5病日が最も多く37.5%であった。年齢別にみると、

- 2歳未満に早く投与を開始する傾向がみられた。
14. ガンマグロブリン治療を受けた者は87.0%を占め、1日あたり投与量は2000mg/kgがほとんどであり、2000mg/kg × 1日の短期間大量投与がさらに増加した。ガンマグロブリン治療を受けた者のうち、ガンマグロブリンの追加治療を受けた者の割合は16.5%であった。
  15. ガンマグロブリン以外の追加治療(ステロイド投与、infliximab投与、免疫抑制剤投与)の割合は、それぞれ全体の5.0%、0.4%、0.2%であった。
  16. 心臓以外の合併症の割合は、肝障害27.4%、胆嚢腫大1.6%、関節痛または関節炎1.1%、無菌性髄膜炎0.55%、麻痺性イレウス0.45%、DIC0.081%、顔面神経麻痺0.0043%であった。診断別では関節痛または関節炎、無菌性髄膜炎、麻痺性イレウス、DICは不定型例がやや多く、肝障害、胆嚢腫大は定型例が多かった。性別では関節痛または関節炎、無菌性髄膜炎、肝障害は女で多く、胆嚢腫大、麻痺性イレウスは男が多かった。2歳未満と2歳以上の2区分に分けてみると、関節痛または関節炎、胆嚢腫大、麻痺性イレウス、DICは2歳以上で多く、無菌性髄膜炎、肝障害は2歳未満が多かった。

## 文献

- 1) 小児MCLS研究班(班長:神前章雄). 小児MCLS全国調査成績, 昭和45年度予備調査成績と昭和46年度個人調査成績の概要. 1971.
- 2) 重松逸造, 柳川洋. いわゆる川崎病について. 日本公衛誌 1975; 22(6): 306-312.
- 3) 柳川洋. 川崎病の実態. 公衆衛生情報 1975; 5(12): 22-29.
- 4) 柳川洋. 川崎病の疫学. 日本臨床 1976; 34(2): 275-283.
- 5) 川崎病研究班. 最近(1977-78年)におけるMCLS(川崎病)の実態, 一第5回全国調査結果の速報一. 小児科 1979; 20(7): 755-757.
- 6) 川崎病研究班. MCLS(川崎病の多発)一第6回全国調査成績の速報一. 小児科 1981; 22(1): 53-58.
- 7) 川崎病研究班. 最近(1981年1月-82年6月)におけるMCLS(川崎病)の実態, 一第7回全国調査成績の速報一. 小児科 1983; 24(1): 53-58.
- 8) 厚生省川崎病研究班. 第8回川崎病全国調査成績. 小児科 1985; 26(9): 1049-1053.
- 9) 柳川洋. 川崎病の全国調査成績. 川崎病疫学データのすべて(日本心臓財団川崎病原因究明委員会編). 東京:ソフトサイエンス社, 1986; 37-51.
- 10) 厚生省川崎病研究班. 第9回川崎病全国調査成績. 小児科 1987; 28(9): 1059-1066.
- 11) 柳川洋, 屋代真弓, 藤田委由. 川崎病の全国調査成績. 川崎病(川崎富作, 重松逸造, 濱島義博, 柳川洋, 加藤裕久編). 東京:南江堂, 1988; 18-31.
- 12) 厚生省川崎病研究班. 第10回川崎病全国調査成績. 小児科 1990; 31(5): 569-576.
- 13) 厚生省川崎病研究班. 第11回川崎病全国調査成績. 小児科 1992; 33(3): 309-316.
- 14) 厚生省川崎病研究班. 第12回川崎病全国調査成績. 小児科 1994; 35(1): 61-73.
- 15) 厚生省川崎病研究班. 第13回川崎病全国調査成績. 小児科 1996; 37(4): 363-383.
- 16) 厚生省川崎病研究班. 第14回川崎病全国調査成績. 小児科診療 1998; 61(3): 406-420.
- 17) 厚生省川崎病研究班. 第15回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2000; 63(1): 121-132.
- 18) 厚生省川崎病研究班. 第16回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2002; 65(2): 332-342.
- 19) 柳川洋, 中村好一, 屋代真弓, 川崎富作(編). 川崎病の疫学一30年間の総括一. 東京:診断と治療社, 2002.
- 20) 厚生労働省川崎病研究班. 第17回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2004; 67(2): 313-323.
- 21) 厚生労働省川崎病研究班. 第18回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2006; 69(2): 281-292.
- 22) 屋代真弓, 中村好一, 柳川洋. 川崎病疫学像の最近の推移 1989 ~ 2004. 日本小児科学会雑誌. 2007; 111(6): 740-745.
- 23) 厚生労働省川崎病研究班. 第19回川崎病全国調査成績. 小児科診療 2008; 71(2): 349-360.
- 24) Kawasaki T, Kosaki F, Okawa S, Shigematsu I, Yanagawa H. A new infantile acute febrile mucocutaneous lymph node syndrome (MLNS) prevailing in Japan. Pediatrics 1974; 54: 271-276.
- 25) Yanagawa H, Kawasaki T, Shigematsu I. Nationwide survey on Kawasaki disease in Japan. Pediatrics 1987; 80: 58-62.
- 26) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Fujita Y, Nagai M, Kawasaki T, Aso S, Imada Y, Shigematsu I. A nationwide survey of Kawasaki disease in 1985-1986 in Japan. J Infect Dis 1988; 158(6):

1296-1301.

- 2 7) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Epidemiologic pictures of Kawasaki disease in Japan: From the nationwide survey in 1991 and 1992. *Pediatrics* 1995; 95 (4): 475-479.
- 2 8) Yanagawa H, Yashiro M, Nakamura Y, Kawasaki T, Kato H. Results of 12 nationwide epidemiological incidence surveys of Kawasaki disease in Japan. *Arch Pediatr Adolesc Med* 1995; 149: 779-783.
- 2 9) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Koyanagi H, Kawasaki T. Update of the epidemiology of Kawasaki disease in Japan, From the results of 1993-94 nationwide survey. *J Epidemiol* 1996; 6(3): 148-157.
- 3 0) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Ojima T, Tanihara S, Oki I, Zhang T. Results of the nationwide epidemiologic survey of Kawasaki disease in 1995 and 1996 in Japan. *Pediatrics* 1998; 102(6): e65.
- 3 1) Yanagawa H, Nakamura Y, Yashiro M, Oki I, Hirata S, Zhang T, Kawasaki T. Incidence survey of Kawasaki disease in 1997 and 1998 in Japan. *Pediatrics* 2001; 107(3): e33.
- 3 2) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Oki I, Watanabe M, Yanagawa H. Epidemiologic Features of Kawasaki Disease in Japan:Results from Nationwide Survey in 2005-2006. *J Epidemiol* 2008; 18(4): 167-172.
- 3 3) Nakamura Y, Yashiro M, Uehara R, Oki I, Watanabe M, Yanagawa H. Monthly observation of the numbers of patients and incidence rates of Kawasaki disease in Japan: results from nationwide surveys. *J Epidemiol* 2008; 18(6): 273-279.

文献 29 と 32、33 は *Journal of Epidemiology* のサイト (<http://www.jstage.jst.go.jp/article/jea/>) で、  
文献 30 と 31 は *Pediatrics* のサイト (<http://www.pediatrics.org/cgi/content/>) で読むことができます。

[表1] 性別患者数、罹患率、死亡数、致命率の推移

年次	患者数			0-4歳人口10万対年間罹患率*			死亡数 (致命率%)
	計	男	女	計	男	女	
～1964	88	58	30	1.1	1.4	0.8	—
1965	61	33	28	0.8	0.8	0.7	—
1966	79	49	30	1.0	1.2	0.8	—
1967	101	60	41	1.2	1.4	1.0	2(1.98)
1968	310	177	133	3.7	4.1	3.2	6(1.94)
1969	461	281	180	5.3	6.3	4.3	9(1.95)
1970	887	527	360	10.1	11.8	8.4	10(1.13)
1971	804	480	324	8.7	10.1	7.1	10(1.24)
1972	1,135	658	477	12.0	13.5	10.4	16(1.41)
1973	1,524	928	596	15.6	18.4	12.5	34(2.23)
1974	1,963	1,157	806	19.7	22.6	16.7	20(1.02)
1975	2,216	1,332	884	22.3	26.1	18.3	16(0.72)
1976	2,337	1,406	931	23.9	28.0	19.6	15(0.64)
1977	2,798	1,706	1,092	29.3	34.8	23.5	17(0.61)
1978	3,459	2,064	1,395	37.7	43.7	31.2	14(0.40)
1979	6,867	3,987	2,880	78.0	88.1	67.3	34(0.50)
1980	3,932	2,317	1,615	46.5	53.4	39.2	8(0.20)
1981	6,383	3,677	2,706	78.3	87.9	68.2	16(0.25)
1982	15,519	8,762	6,757	196.1	215.8	175.4	46(0.30)
1983	5,961	3,441	2,520	77.3	86.9	67.1	15(0.25)
1984	6,514	3,790	2,724	86.0	97.5	73.9	17(0.26)
1985	7,611	4,430	3,181	102.1	116.4	87.1	10(0.13)
1986	12,847	7,250	5,597	176.8	194.7	157.9	18(0.14)
1987	5,256	3,066	2,190	73.8	84.0	63.1	9(0.17)
1988	5,217	3,056	2,161	75.3	86.0	64.1	4(0.08)
1989	5,591	3,251	2,340	83.6	94.7	71.9	8(0.14)
1990	5,706	3,268	2,438	88.1	98.4	77.3	12(0.21)
1991	5,677	3,354	2,323	90.1	103.8	75.7	7(0.12)
1992	5,544	3,250	2,294	89.9	102.8	76.4	2(0.04)
1993	5,389	3,155	2,234	89.1	101.6	75.9	11(0.20)
1994	6,069	3,574	2,495	101.1	115.9	85.4	2(0.03)
1995	6,107	3,548	2,559	102.6	116.4	88.2	6(0.09)
1996	6,424	3,691	2,733	108.4	121.6	94.6	4(0.06)
1997	6,373	3,690	2,683	108.0	122.0	93.2	9(0.14)
1998	6,593	3,799	2,794	111.5	125.3	96.9	2(0.03)
1999	7,047	4,102	2,945	119.6	135.8	102.6	3(0.04)
2000	8,267	4,758	3,509	141.1	158.5	122.8	5(0.06)
2001	8,113	4,588	3,525	138.8	153.2	123.7	0( - )
2002	8,839	5,156	3,683	151.9	172.8	130.0	2(0.02)
2003	9,146	5,281	3,865	159.2	179.2	138.2	4(0.04)
2004	9,992	5,778	4,214	175.9	198.3	152.4	4(0.04)
2005	10,041	5,868	4,173	181.0	206.5	154.2	1(0.01)
2006	10,434	6,024	4,410	191.4	215.8	165.9	1(0.01)
2007	11,581	6,684	4,897	215.3	242.6	186.6	2(0.02)
2008	11,756	6,839	4,917	218.6	248.2	187.4	4(0.03)
計	249,019	144,350	104,669	—	—	—	435(0.17)

\*: 罹患率の計算には人口動態統計の分母に用いる日本人人口(5年ごとの国勢調査人口および各年次の推計人口で、人口動態統計に掲載されているもの。ただし、2008年は2007年の推計人口)を用いた。前回調査の2006年は2005年の人口を用いたので今回2006年の人口で修正した。



[表2] 年齢別、年次別、性別患者数および罹患率(人口10万対)

年齢	患者数											
	総数				2007年				2008年			
	総数	罹患率*	男	女	総数	罹患率*	男	女	総数	罹患率*	男	女
総数**	23,337	216.9	13,523	9,814	11,581	215.3	6,684	4,897	11,756	218.6	6,839	4,917
0-2か月	439	81.1	223	216	221	81.7	112	109	218	80.6	111	107
3-5か月	1,594	294.6	934	660	772	285.4	447	325	822	303.9	487	335
6-8か月	2,023	373.9	1,222	801	983	363.4	603	380	1,040	384.5	619	421
9-11か月	2,052	379.3	1,247	805	1,024	378.6	615	409	1,028	380.0	632	396
12-14か月	1,550	290.8	963	587	757	284.1	463	294	793	297.6	500	293
15-17か月	1,588	297.9	949	639	748	280.7	455	293	840	315.2	494	346
18-20か月	1,430	268.3	812	618	727	272.8	412	315	703	263.8	400	303
21-23か月	1,277	239.6	713	564	646	242.4	360	286	631	236.8	353	278
2歳-	2,153	206.8	1,231	922	1,094	210.2	620	474	1,059	203.5	611	448
2歳6か月-	1,689	162.2	991	698	861	165.4	509	352	828	159.1	482	346
3歳-	1,440	133.0	806	634	729	134.6	412	317	711	131.3	394	317
3歳6か月-	1,257	116.1	684	573	656	121.1	355	301	601	111.0	329	272
4歳-	2,135	96.3	1,185	950	1,037	93.6	569	468	1,098	99.1	616	482
5歳-	1,186	50.9	659	527	558	47.9	298	260	628	53.9	361	267
6歳-	681	29.2	389	292	330	28.3	187	143	351	30.1	202	149
7歳-	358	15.4	231	127	182	15.6	122	60	176	15.1	109	67
8歳-	190	8.2	106	84	103	8.8	52	51	87	7.5	54	33
9歳-	118	5.1	69	49	62	5.3	33	29	56	4.8	36	20
10歳以上	177	1.5	109	68	91	1.5	60	31	86	1.4	49	37

\*: 罹患率の計算には2007年人口動態統計の分母に用いる日本人人口を用いた。

\*\* : 総数の罹患率の計算には、0-4歳日本人人口を用いた。

[表3] 患者住所都道府県別、年次別、性別患者数および罹患率(0-4歳人口10万対)

	2005年				2006年				2007年				2008年			
	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*	患者数			罹患率*
	総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女	
全国**	10,041	5,868	4,173	181.0	10,434	6,024	4,410	191.4	11,581	6,684	4,897	215.3	11,756	6,839	4,917	218.6
1:北海道	392	230	162	177.4	385	239	146	174.2	488	285	203	220.8	461	257	204	208.6
2:青森	112	69	43	193.1	89	53	36	153.4	92	42	50	158.6	99	62	37	170.7
3:岩手	43	27	16	75.4	47	26	21	82.5	47	26	21	82.5	74	48	26	129.8
4:宮城	89	56	33	87.3	132	86	46	129.4	201	119	82	197.1	201	115	86	197.1
5:秋田	58	30	28	141.5	55	27	28	134.1	90	49	41	219.5	70	42	28	170.7
6:山形	110	70	40	215.7	91	56	35	178.4	117	56	61	229.4	118	74	44	231.4
7:福島	148	81	67	159.1	187	109	78	201.1	214	113	101	230.1	229	115	114	246.2
8:茨城	225	133	92	170.5	240	127	113	181.8	217	124	93	164.4	226	127	99	171.2
9:栃木	177	106	71	194.5	200	133	67	219.8	226	145	81	248.4	229	151	78	251.6
10:群馬	167	100	67	181.5	180	112	68	195.7	237	134	103	257.6	214	125	89	232.6
11:埼玉	505	253	252	160.3	464	267	197	147.3	531	318	213	168.6	532	309	223	168.9
12:千葉	597	369	228	225.3	622	360	262	234.7	613	357	256	231.3	628	338	290	237.0
13:東京	956	549	407	200.4	983	533	450	206.1	1,184	686	498	248.2	1,174	702	472	246.1
14:神奈川	883	520	363	224.1	908	531	377	230.5	949	549	400	240.9	972	568	404	246.7
15:新潟	150	100	50	151.5	148	80	68	149.5	194	116	78	196.0	178	106	72	179.8
16:富山	47	33	14	97.9	52	30	22	108.3	59	34	25	122.9	75	44	31	156.3
17:石川	147	90	57	277.4	134	83	51	252.8	112	69	43	211.3	100	51	49	188.7
18:福井	84	47	37	227.0	96	61	35	259.5	76	47	29	205.4	104	57	47	281.1
19:山梨	44	28	16	115.8	67	37	30	176.3	54	32	22	142.1	48	30	18	126.3
20:長野	189	111	78	189.0	208	118	90	208.0	225	127	98	225.0	244	134	110	244.0
21:岐阜	150	87	63	156.3	146	88	58	152.1	197	105	92	205.2	183	99	84	190.6
22:静岡	272	165	107	157.2	353	172	181	204.0	341	204	137	197.1	325	188	137	187.9
23:愛知	639	356	283	180.5	723	432	291	204.2	878	493	385	248.0	828	484	344	233.9
24:三重	152	90	62	181.0	142	79	63	169.0	201	105	96	239.3	168	106	62	200.0
25:滋賀	145	75	70	210.1	114	65	49	165.2	97	55	42	140.6	95	59	36	137.7
26:京都	227	129	98	202.7	213	118	95	190.2	254	159	95	226.8	222	128	94	198.2
27:大阪	786	460	326	199.0	779	454	325	197.2	796	457	339	201.5	824	479	345	208.6
28:兵庫	536	312	224	211.9	525	297	228	207.5	545	318	227	215.4	603	368	235	238.3
29:奈良	108	61	47	180.0	106	64	42	176.7	131	74	57	218.3	161	83	78	268.3
30:和歌山	111	71	40	264.3	78	48	30	185.7	118	68	50	281.0	93	55	38	221.4
31:鳥取	27	14	13	103.8	44	27	17	169.2	47	30	17	180.8	39	22	17	150.0
32:島根	41	24	17	132.3	35	21	14	112.9	55	31	24	177.4	55	33	22	177.4
33:岡山	124	73	51	140.9	156	85	71	177.3	126	79	47	143.2	134	78	56	152.3
34:広島	237	147	90	183.7	250	141	109	193.8	264	151	113	204.7	304	176	128	235.7
35:山口	98	63	35	160.7	96	54	42	157.4	99	57	42	162.3	127	68	59	208.2
36:徳島	44	25	19	137.5	58	42	16	181.3	86	47	39	268.8	71	40	31	221.9
37:香川	77	48	29	171.1	68	42	26	151.1	74	48	26	164.4	107	71	36	237.8
38:愛媛	118	70	48	193.4	136	67	69	223.0	147	82	65	241.0	129	75	54	211.5
39:高知	47	24	23	151.6	62	38	24	200.0	51	28	23	164.5	68	33	35	219.4
40:福岡	328	187	141	147.1	366	221	145	164.1	477	275	202	213.9	472	277	195	211.7
41:佐賀	40	27	13	100.0	48	28	20	120.0	65	40	25	162.5	70	47	23	175.0
42:長崎	76	44	32	134.4	104	65	39	162.5	88	56	32	137.5	83	47	36	129.7
43:熊本	150	92	58	185.2	148	88	60	182.7	177	100	77	218.5	211	131	80	260.5
44:大分	124	71	53	243.1	137	78	59	268.6	97	58	39	190.2	108	62	46	211.8
45:宮崎	50	32	18	98.0	52	29	23	102.0	45	24	21	88.2	73	50	23	143.1
46:鹿児島	114	62	52	148.1	101	57	44	131.2	110	65	45	142.9	140	78	62	181.8
47:沖縄	95	57	38	115.9	104	55	49	126.8	87	46	41	106.1	86	46	40	104.9
48:国外	2	0	2	—	2	1	1	—	2	1	1	—	1	1	0	—

\*: 都道府県別罹患率は2005年国勢調査人口を用いて計算した。

\*\* : 全国の罹患率は各年次の推計人口を用いて計算した(ただし2008年は2007年の推計人口を使用)。

[表4] 年齢別、性別診断の確実度

		総数(%)	定型例(%)	不定型例(%)	容疑例(%)
総数		23,337 (100)	18,620 (79.8)	648 (2.8)	4,069 (17.4)
性別	男	13,523 (100)	10,791 (79.8)	413 (3.1)	2,319 (17.1)
	女	9,814 (100)	7,829 (79.8)	235 (2.4)	1,750 (17.8)
年齢別	0-5か月	2,033 (100)	1,402 (69.0)	80 (3.9)	551 (27.1)
	6-11か月	4,075 (100)	3,009 (73.8)	110 (2.7)	956 (23.5)
	1歳-	5,845 (100)	4,641 (79.4)	167 (2.9)	1,037 (17.7)
	2歳-	3,842 (100)	3,272 (85.2)	89 (2.3)	481 (12.5)
	3歳-	2,697 (100)	2,317 (85.9)	51 (1.9)	329 (12.2)
	4歳-	2,135 (100)	1,814 (85.0)	54 (2.5)	267 (12.5)
	5歳-	1,186 (100)	988 (83.3)	35 (3.0)	163 (13.7)
	6歳-	681 (100)	549 (80.6)	26 (3.8)	106 (15.6)
	7歳-	358 (100)	285 (79.6)	9 (2.5)	64 (17.9)
	8歳-	190 (100)	139 (73.2)	9 (4.7)	42 (22.1)
	9歳-	118 (100)	93 (78.8)	4 (3.4)	21 (17.8)
	10歳以上	177 (100)	111 (62.7)	14 (7.9)	52 (29.4)

[表5] 性別、年齢別容疑例の主要症状の数

		患者数 (容疑例) (%)	主要症状の数(%)				
			1個	2個	3個	4個	不明
総数		4,069 (100)	32 (0.8)	239 (5.9)	1,063 (26.1)	2,661 (65.4)	74 (1.8)
性別	男	2,319 (100)	22 (0.9)	134 (5.8)	622 (26.8)	1,499 (64.6)	42 (1.8)
	女	1,750 (100)	10 (0.6)	105 (6.0)	441 (25.2)	1,162 (66.4)	32 (1.8)
年齢別	0-5か月	551 (100)	13 (2.4)	49 (8.9)	150 (27.2)	331 (60.1)	8 (1.5)
	6-11か月	956 (100)	5 (0.5)	71 (7.4)	286 (29.9)	583 (61.0)	11 (1.2)
	1歳-	1,037 (100)	9 (0.9)	60 (5.8)	245 (23.6)	700 (67.5)	23 (2.2)
	2歳-	481 (100)	1 (0.2)	20 (4.2)	118 (24.5)	328 (68.2)	14 (2.9)
	3歳-	329 (100)	1 (0.3)	14 (4.3)	87 (26.4)	223 (67.8)	4 (1.2)
	4歳-	267 (100)	0 -	13 (4.9)	73 (27.3)	174 (65.2)	7 (2.6)
	5歳-	163 (100)	1 (0.6)	5 (3.1)	39 (23.9)	116 (71.2)	2 (1.2)
	6歳-	106 (100)	0 -	1 (0.9)	27 (25.5)	77 (72.6)	1 (0.9)
	7歳-	64 (100)	0 -	3 (4.7)	8 (12.5)	52 (81.3)	1 (1.6)
	8歳-	42 (100)	0 -	2 (4.8)	9 (21.4)	30 (71.4)	1 (2.4)
	9歳-	21 (100)	0 -	0 -	6 (28.6)	15 (71.4)	0 -
	10歳以上	52 (100)	2 (3.8)	1 (1.9)	15 (28.8)	32 (61.5)	2 (3.8)

[表6] 性別、初診時年齢別、診断別死亡例の割合

総 数		総 数	死亡例	(%)
		23,337	6	0.03
性別	男	13,523	5	0.04
	女	9,814	1	0.01
初診時年齢別	0-5か月	2,033	4	0.20
	6-11か月	4,075	1	0.02
	1歳	5,845	1	0.02
診断別	定型例	18,620	5	0.03
	不定型例	648	0	—
	容疑例	4,069	1	0.02

[表7] 種類別、性別、年齢別心障害の出現率

		総 数 (%)	巨大瘤 (%)	瘤 (%)	拡大 (%)	狭窄 (%)	心筋梗塞 (%)	弁膜病変 (%)	
急性期	総 数	23,337 (100)	58 (0.25)	282 (1.21)	1,992 (8.54)	8 (0.03)	3 (0.01)	383 (1.64)	
	性別	男	13,523 (100)	44 (0.33)	203 (1.50)	1,331 (9.84)	5 (0.04)	3 (0.02)	212 (1.57)
		女	9,814 (100)	14 (0.14)	79 (0.80)	661 (6.74)	3 (0.03)	—	171 (1.74)
	年齢別	2歳未満	11,953 (100)	24 (0.20)	147 (1.23)	969 (8.11)	2 (0.02)	3 (0.03)	164 (1.37)
		2歳以上	11,384 (100)	34 (0.30)	135 (1.19)	1,023 (8.99)	6 (0.05)	—	219 (1.92)
後遺症	総 数	23,337 (100)	59 (0.25)	188 (0.81)	435 (1.86)	5 (0.02)	2 (0.01)	114 (0.49)	
	性別	男	13,523 (100)	48 (0.35)	138 (1.02)	307 (2.27)	4 (0.03)	2 (0.01)	68 (0.50)
		女	9,854 (100)	11 (0.11)	50 (0.51)	128 (1.30)	1 (0.01)	—	46 (0.47)
	年齢別	2歳未満	11,953 (100)	23 (0.19)	91 (0.76)	233 (1.95)	1 (0.01)	1 (0.01)	47 (0.39)
		2歳以上	11,384 (100)	36 (0.32)	97 (0.85)	202 (1.77)	4 (0.04)	1 (0.01)	67 (0.59)

[表8] 年齢別、初診時およびガンマグロブリン投与開始時病日の分布

		総数(%)	2歳未満(%)	2歳以上(%)
初診時*	総数	23,332 (100)	11,949 (100)	11,383 (100)
	第1病日	1,151 (4.9)	763 (6.4)	388 (3.4)
	第2病日	3,478 (14.9)	2,094 (17.5)	1,384 (12.2)
	第3病日	5,261 (22.5)	2,770 (23.2)	2,491 (21.9)
	第4病日	5,741 (24.6)	2,899 (24.3)	2,842 (25.0)
	第5病日	4,057 (17.4)	1,920 (16.1)	2,137 (18.8)
	第6病日	1,999 (8.6)	861 (7.2)	1,138 (10.0)
	第7病日	819 (3.5)	320 (2.7)	499 (4.4)
	第8病日	373 (1.6)	140 (1.2)	233 (2.0)
	第9病日	184 (0.8)	56 (0.5)	128 (1.1)
	第10病日以上	269 (1.2)	126 (1.1)	143 (1.3)
ガンマグロブリン投与時**	総数	20,290 (100)	10,238 (100)	10,052 (100)
	第1病日	12 (0.1)	7 (0.1)	5 (0.0)
	第2病日	188 (0.9)	130 (1.3)	58 (0.6)
	第3病日	1,128 (5.6)	738 (7.2)	390 (3.9)
	第4病日	4,150 (20.5)	2,383 (23.3)	1,767 (17.6)
	第5病日	7,608 (37.5)	3,836 (37.5)	3,772 (37.5)
	第6病日	3,991 (19.7)	1,807 (17.6)	2,184 (21.7)
	第7病日	1,848 (9.1)	757 (7.4)	1,091 (10.9)
	第8病日	735 (3.6)	291 (2.8)	444 (4.4)
	第9病日	304 (1.5)	121 (1.2)	183 (1.8)
	第10病日以上	326 (1.6)	168 (1.6)	158 (1.6)

\*: 初診時病日不明 5人を除く23,332人を集計した。

\*\* : ガンマグロブリン使用例20,313人のうち1日投与量、投与日数、投与開始時病日不明23人を除く20,290人を集計した。

[表9] ガンマグロブリン1日投与量(mg/kg)別、投与日数の分布

		総数および%		1日	2日	3日	4日	5日
総数*		20,304 (100)	100	17,765 (87.5)	2,346 (11.6)	41 (0.2)	21 (0.1)	131 (0.6)
-299mg/kg		17	0.08	3	3	1	1	9
300-499mg/kg		143	0.70	3	8	13	9	110
500-699mg/kg		27	0.13	4	3	6	9	5
700-899mg/kg		30	0.15	12	11	3	0	4
900-1099mg/kg		4,006	19.73	1,712	2,272	17	2	3
1100-1299mg/kg		71	0.35	58	12	1	0	0
1300-1499mg/kg		7	0.03	6	1	0	0	0
1500-1699mg/kg		34	0.17	33	1	0	0	0
1700-1899mg/kg		199	0.98	199	0	0	0	0
1900-2099mg/kg		15,642	77.04	15,607	35	0	0	0
2100mg/kg+		128	0.63	128	0	0	0	0
再掲	200mg/kg	11	0.05	0	2	1	0	8
	400mg/kg	130	0.64	2	8	12	9	99
	1000mg/kg	3,872	19.07	1,636	2,215	16	2	3
	2000mg/kg	15,209	74.91	15,175	34	0	0	0
	その他	1,082	5.33	952	87	12	10	21

\*: ガンマグロブリン使用例20,313人のうち1日投与量、投与日数不明9人を除く20,304人を集計した。  
 ( )内は横向きのを示す。

[表10] 性別、年齢別、診断別追加治療ありの割合

		総数* (%)	ガンマグロブリン追加投与 (%)	総数 (%)	ステロイド投与 (%)	infliximab投与 (%)	免疫抑制剤投与 (%)
総数		20,313 (100)	3,351 (16.5)	23,337 (100)	1,173 (5.0)	81 (0.35)	54 (0.23)
性別	男	11,813 (100)	2,112 (17.9)	13,523 (100)	754 (5.6)	54 (0.40)	40 (0.30)
	女	8,500 (100)	1,239 (14.6)	9,814 (100)	419 (4.3)	27 (0.28)	14 (0.14)
年齢別	2歳未満	10,251 (100)	1,549 (15.1)	11,953 (100)	486 (4.1)	25 (0.21)	36 (0.30)
	2歳以上	10,062 (100)	1,802 (17.9)	11,384 (100)	687 (6.0)	56 (0.49)	18 (0.16)
診断別	定型例	17,304 (100)	3,018 (17.4)	18,620 (100)	1,027 (5.5)	76 (0.41)	49 (0.26)
	不定型例	534 (100)	85 (15.9)	648 (100)	38 (5.9)	3 (0.46)	1 (0.15)
	容疑例	2,475 (100)	248 (10.0)	4,069 (100)	108 (2.7)	2 (0.05)	4 (0.10)

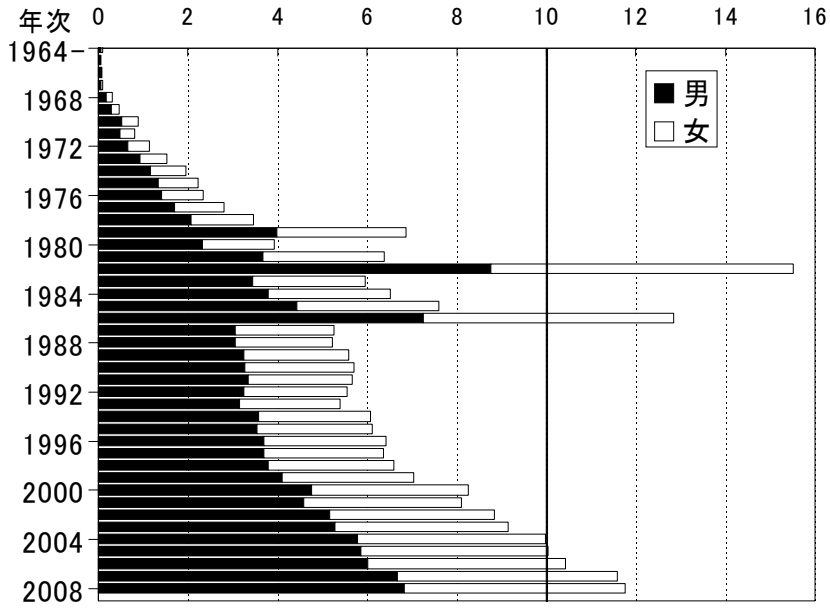
\*: ガンマグロブリン使用例 20,313人を集計した。

[表11] 性別、年齢別、診断別心臓以外の合併症の数

		患者数 (%)	心臓以外の合併症の種類(%)						
			関節痛 または 関節炎	無菌性 髄膜炎	肝障害	胆嚢腫大	麻痺性 イレウス	顔面神経 麻痺	DIC
総数		23,337 (100)	264 (1.13)	129 (0.55)	6,396 (27.41)	379 (1.62)	104 (0.45)	1 (0.00)	19 (0.08)
性別	男	13,523 (100)	149 (1.10)	74 (0.55)	3,568 (26.38)	240 (1.77)	67 (0.50)	1 (0.01)	11 (0.08)
	女	9,814 (100)	115 (1.17)	55 (0.56)	2,828 (28.82)	139 (1.42)	37 (0.38)	0 —	8 (0.08)
年齢別	0-5か月	2,033 (100)	8 (0.39)	46 (2.26)	413 (20.31)	12 (0.59)	3 (0.15)	0 —	2 (0.10)
	6-11か月	4,075 (100)	6 (0.15)	18 (0.44)	1,277 (31.34)	56 (1.37)	4 (0.10)	0 —	1 (0.02)
	1歳-	5,845 (100)	32 (0.55)	8 (0.14)	1,646 (28.16)	82 (1.40)	9 (0.15)	0 —	3 (0.05)
	2歳-	3,842 (100)	45 (1.17)	8 (0.21)	1,054 (27.43)	56 (1.46)	14 (0.36)	0 —	1 (0.03)
	3歳-	2,697 (100)	43 (1.59)	16 (0.59)	702 (26.03)	62 (2.30)	19 (0.70)	0 —	0 —
	4歳-	2,135 (100)	42 (1.97)	12 (0.56)	549 (25.71)	42 (1.97)	19 (0.89)	0 —	4 (0.19)
	5歳-	1,186 (100)	40 (3.37)	7 (0.59)	313 (26.39)	29 (2.45)	8 (0.67)	0 —	1 (0.08)
	6歳-	681 (100)	16 (2.35)	10 (1.47)	196 (28.78)	20 (2.94)	13 (1.91)	1 (0.15)	4 (0.59)
	7歳-	358 (100)	14 (3.91)	2 (0.56)	98 (27.37)	9 (2.51)	5 (1.40)	0 —	0 —
	8歳-	190 (100)	4 (2.11)	0 —	57 (30.00)	5 (2.63)	1 (0.53)	0 —	0 —
	9歳-	118 (100)	6 (5.08)	0 —	34 (28.81)	2 (1.69)	1 (0.85)	0 —	1 (0.85)
10歳以上	177 (100)	8 (4.52)	2 (1.13)	57 (32.20)	4 (2.26)	8 (4.52)	0 —	2 (1.13)	
診断別	定型例	18,620 (100)	219 (1.18)	87 (0.47)	5,492 (29.50)	333 (1.79)	85 (0.46)	1 (0.01)	15 (0.08)
	不定型例	648 (100)	11 (1.70)	7 (1.08)	139 (21.45)	9 (1.39)	7 (1.08)	0 —	2 (0.31)
	容疑例	4,069 (100)	34 (0.84)	35 (0.86)	765 (18.80)	37 (0.91)	12 (0.29)	0 —	2 (0.05)

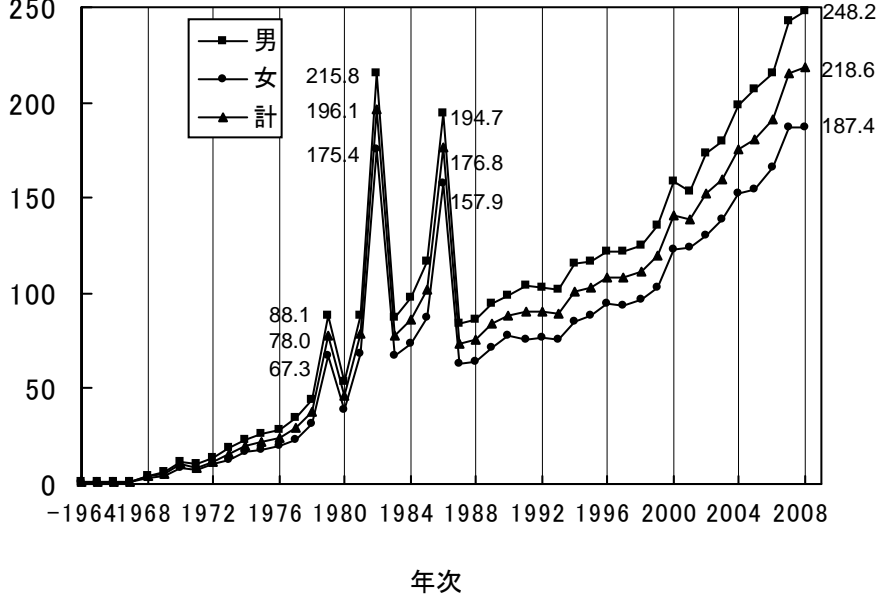
[図1] 年次別、性別患者数

千人



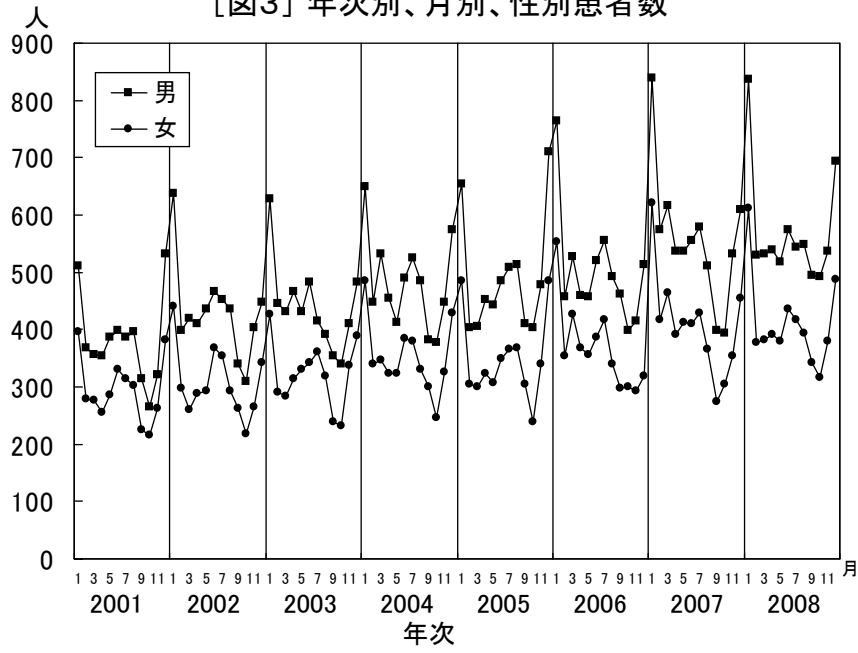
[図2] 年次別、性別罹患率

0-4歳人口10万対

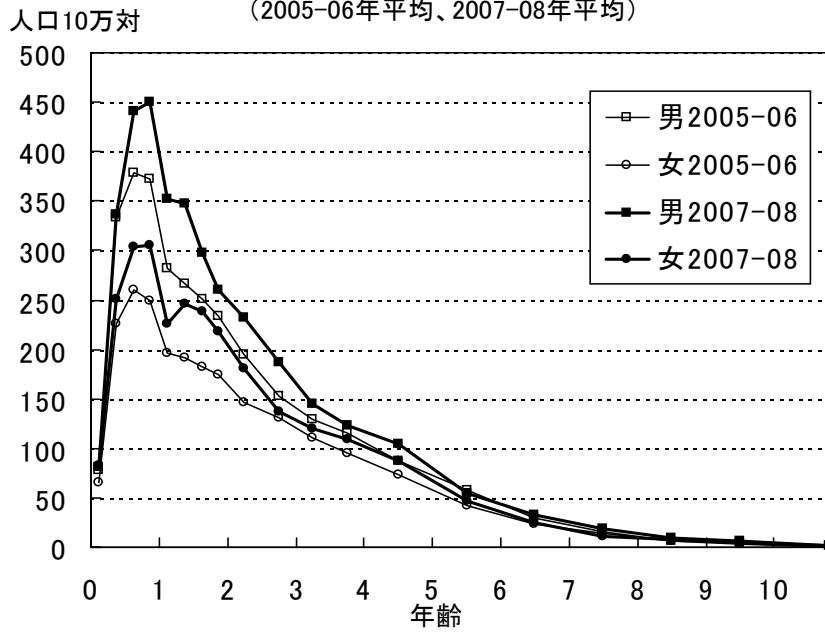




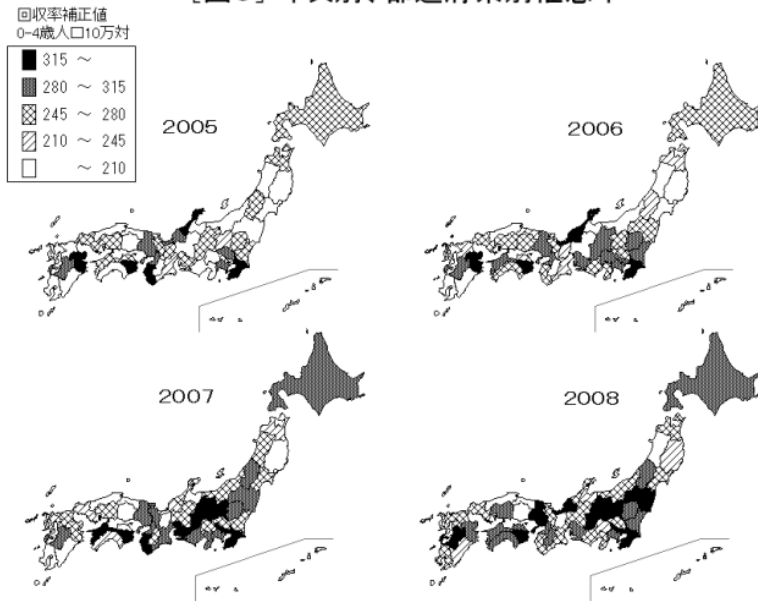
[图3] 年次別、月別、性別患者数



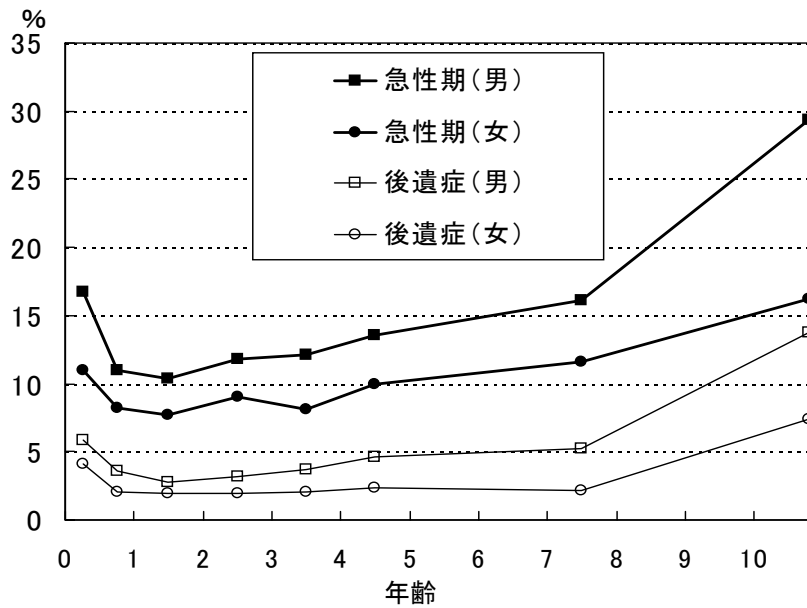
[图4] 年次別、性別、年齢別罹患率  
(2005-06年平均、2007-08年平均)



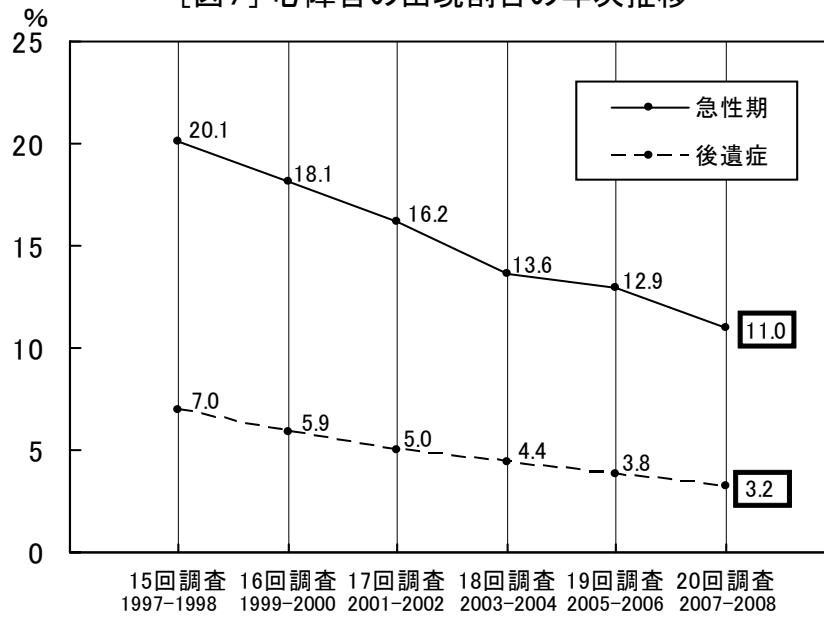
[図5] 年次別、都道府県別罹患率



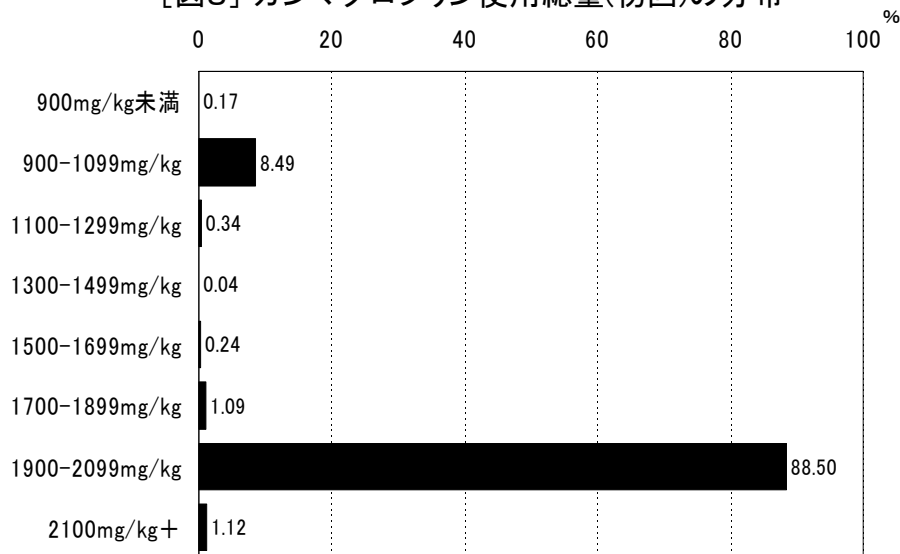
[図6] 性別、年齢別心障害の出現率



[図7] 心障害の出現割合の年次推移



[図8] ガンマグロブリン使用総量(初回)の分布



\* ガンマグロブリン使用例20,313人のうち1日投与量、投与日数不明9人を除く20,304人を集計

第1回全国調査以来終始変わらぬご協力を賜った関係医療機関の小児科医各位に対し、本研究グループとして深く感謝します。

今回の調査にご協力いただいた医療機関名を付記します。

本報告書は <http://www.jichi.ac.jp/dph/ken.html> でも読むことができます。

## 第20回全国調査協力施設名（都道府県別、順不同）

### 1. 北海道

独立行政法人国立病院機構道北病院  
国立大学法人北海道大学病院  
札幌鉄道病院  
NTT 東日本札幌病院  
札幌医科大学附属病院  
道立旭川肢体不自由児総合療育センター  
道立羽幌病院  
市立札幌病院  
市立小樽病院  
市立函館病院  
江別市立病院  
市立三笠総合病院  
岩見沢市立総合病院  
市立美瑛病院  
町立長沼病院  
砂川市立病院  
市立赤平総合病院  
深川市立病院  
市立旭川病院  
名寄市立総合病院  
苫小牧市立病院  
白老町立国民健康保険病院  
公立芽室病院  
市立根室病院  
町立別海病院  
市立稚内病院  
留萌市立病院  
栗山赤十字病院  
旭川赤十字病院  
総合病院伊達赤十字病院  
清水赤十字病院  
総合病院釧路赤十字病院  
総合病院北見赤十字病院  
社会事業協会・小樽病院  
社会事業協会・函館病院  
社会事業協会・余市病院  
岩内協会病院  
社会事業協会・帯広病院  
JA 北海道厚生連札幌厚生病院  
JA 北海道厚生連旭川厚生病院  
JA 北海道厚生連遠軽厚生病院  
北海道社会保険病院  
王子総合病院  
函館五稜郭病院  
函館中央病院  
共愛会病院  
天使病院  
勤医協札幌病院  
札幌社会保険総合病院  
五輪橋産科婦人科小児科病院  
育愛会札幌東豊病院  
慶愛病院  
ふらの西病院  
町立松前病院  
北楡会札幌北楡病院  
北翔会札幌あゆみの園  
独立行政法人国立病院機構帯広病院  
自衛隊札幌病院  
木古内町国民健康保険病院  
KKR 札幌医療センター  
国立大学法人旭川医科大学医学部附属病院  
（財）小児愛育協会附属愛育病院  
小島病院  
医療法人浩仁会恵庭第一病院  
市立土別総合病院  
札幌マタニティウィメンズホスピタル  
医療法人徳洲会札幌徳洲会病院  
手稲溪仁会病院  
（医療法人）道南勤医協函館稜北病院  
（医療法人）北晨会恵み野病院  
豊岡中央病院  
シロアムこどもクリニック  
斜里町国民健康保険病院

### 2. 青森県

独立行政法人国立病院機構弘前病院  
国立大学法人弘前大学医学部附属病院  
青森県立中央病院  
青森市民病院  
八戸市立市民病院  
黒石市国保黒石病院  
青森市立浪岡病院  
国民健康保険鶴岡町立中央病院  
国民健康保険五所川原市立西北中央病院  
鱒ヶ沢町立中央病院  
公立野辺地病院  
公立七戸病院  
むつ総合病院  
財団法人双仁会青森厚生病院  
独立行政法人国立病院機構八戸病院  
市立三沢病院  
弘前市立病院  
（財）双仁会 厚生病院  
青森労災病院  
独立行政法人国立病院機構青森病院  
財団法人鷹揚郷腎研究所弘前病院  
美保野病院  
医療法人赤心会十和田東病院

### 3. 岩手県

岩手県立釜石病院  
岩手県立宮古病院  
岩手県立花巻厚生病院  
岩手県立胆沢病院  
岩手県立大船渡病院  
岩手県立久慈病院  
岩手県立二戸病院  
岩手県立江刺病院  
盛岡赤十字病院  
北上済生会病院  
一関病院  
岩手医科大学附属病院  
もりおかこども病院  
岩手医科大学附属循環器医療センター  
岩手県立山田病院  
岩手県立北上病院  
独立行政法人国立病院機構岩手病院  
川久保病院  
東八幡平病院  
岩手県立磐井病院

### 4. 宮城県

仙台医療センター  
独立行政法人国立病院機構宮城病院  
J R 仙台病院  
仙台市立病院  
塩釜市立病院  
大崎市民病院  
気仙沼市立病院  
公立志津川総合病院  
公立刈田総合病院  
みやぎ県南中核病院  
公立黒川病院  
総合病院仙台赤十字病院  
石巻赤十字病院  
東北公済病院  
（財）宮城厚生協会坂総合病院  
（医療）本多友愛会仙南病院  
石巻市立病院  
エコー療育園  
スズギ病院  
独立行政法人国立病院機構西多賀病院  
光ヶ丘スペルマン病院  
東北労災病院  
自衛隊仙台病院  
N T T 東日本東北病院  
（財）宮城厚生協会 長町病院  
宮城県拓桃医療療育センター  
公立米谷病院

### 5. 秋田県

大館市立総合病院  
男鹿みなと市民病院  
秋田市立秋田総合病院  
仙北市立角館総合病院  
市立横手病院  
秋田赤十字病院  
鹿角組合総合病院  
湖東総合病院  
秋田組合総合病院  
由利組合総合病院  
平鹿総合病院  
雄勝中央病院  
中通総合病院  
外旭川病院  
佐藤病院  
秋田社会保険病院  
市立大森病院  
秋田大学医学部附属病院  
秋田県太平洋育園  
北秋中央病院  
藤原記念病院

### 6. 山形県

山形県立中央病院  
山形県立新庄病院  
天童市民病院  
山形市立病院済生館  
市立酒田病院  
鶴岡市立荘内病院  
公立高島病院  
米沢市立病院  
済生会 山形済生病院  
（医療）篠田好生会篠田総合病院  
日本海総合病院  
公立置賜総合病院  
山形県立河北病院  
独立行政法人国立病院機構米沢病院  
山形大学医学部附属病院  
鶴岡協立病院  
独立行政法人国立病院機構山形病院

### 7. 福島県

福島県立医科大学附属病院  
公立藤田総合病院  
公立岩瀬病院  
いわき市立総合磐城共立病院  
南相馬市立総合病院  
総合病院福島赤十字病院  
白河厚生総合病院  
塙厚生病院  
坂下厚生総合病院  
（財）大原総合病院  
寿泉堂総合病院  
（財）竹田総合病院  
（財）竹林病院  
福島整肢療護園  
財団法人大原総合病院附属大原医療センター  
財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院  
財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院  
新生会内科小児科佐藤病院  
県立南会津病院  
独立行政法人国立病院機構福島病院  
福島県厚生農協組合連双葉厚生病院  
（財）星総合病院  
（財）松村総合病院  
（医療）保科病院  
独立行政法人国立病院機構いわき病院  
中村病院  
医療生協わたり病院  
医療法人昨雲会飯塚病院附属有隣病院  
福島県総合療育センター  
医療法人三愛会池田温泉病院  
公立相馬総合病院

## 8. 茨城県

独立行政法人国立病院機構霞ヶ浦医療センター  
茨城県立子ども福祉医療センター  
茨城県立中央病院  
水戸済生会総合病院  
国公共済連水府病院  
総合病院東京医科大学霞ヶ浦病院  
日立製作所 水戸総合病院  
城南病院  
県立子ども病院  
双愛会つくば双愛病院  
威恵会三岳荘小松崎病院  
なめがた地域総合病院  
医療法人 みつなみ会 古河病院  
県西総合病院  
（医療）愛宣会 秦病院  
（医療）盡誠会 宮本病院  
株式会社日立製作所日立総合病院  
筑西市市民病院  
筑波大学附属病院  
（医療）住吉クリニック病院  
（医療）愛正会 田尻ヶ丘病院  
倅慈会日立港病院  
（医療）常仁会牛久愛和総合病院  
（財）筑波学園病院  
友愛記念病院  
北茨城市立総合病院  
総合病院取手協同病院  
高萩協同病院  
医療法人清真会丹野病院  
石岡市医師会病院  
財団法人筑波メディカルセンター病院  
きぬ医師会病院  
茨城西南医療センター病院  
独立行政法人国立病院機構茨城東病院

## 9. 栃木県

独立行政法人国立病院機構栃木病院  
小山市民病院  
佐野市民病院  
芳賀赤十字病院  
大田原赤十字病院  
足利赤十字病院  
済生会 宇都宮病院  
上都賀総合病院  
塩谷総合病院  
佐野厚生総合病院  
宇都宮社会保険病院  
日光市民病院  
独立行政法人国立病院機構宇都宮病院  
真岡病院  
光南病院  
医療法人社団友志会野木病院  
南那須地区広域行政事務組合立那須南病院  
国際医療福祉大学病院  
英静会森病院  
あしかがの森 足利病院  
自治医科大学附属病院  
獨協医科大学病院小児科  
（財団医療法人十全会）上野内科・小児科  
黒須病院  
菅又病院  
とちぎリハビリテーションセンター  
西方病院  
とちの木病院  
佐野医師会病院

## 10. 群馬県

独立行政法人国立病院機構高崎病院  
独立行政法人国立病院機構沼田病院  
渋川総合病院  
群馬大学医学部附属病院  
桐生厚生総合病院  
藤岡総合病院  
碓氷病院  
伊勢崎市民病院  
前橋赤十字病院  
公立富岡総合病院  
社保群馬中央総合病院

富士重工業健康保険組合総合太田病院  
利根中央病院  
本島総合病院  
群馬県立小児医療センター  
西吾妻福祉病院  
伊勢崎佐波医師会病院  
（医療）中沢会 上毛病院  
済生会前橋病院  
前橋協立病院  
（医療）山崎会サンピエール病院  
希望の家療育病院  
独立行政法人国立病院機構西群馬病院  
群馬整肢療護園  
高崎中央病院  
小児科佐藤病院  
北毛保健生活協同組合北毛病院  
下仁田厚生病院

## 11. 埼玉県

独立行政法人国立病院機構西埼玉中央病院  
独立行政法人国立病院機構埼玉病院  
蕨市立病院  
春日部市立病院  
草加市立病院  
さいたま赤十字病院  
埼玉県済生会川口総合病院  
埼玉厚生農協連熊谷総合病院  
埼玉社会保険病院  
戸田中央総合病院  
（医療）健仁会 益子病院  
（医療）ヘブロン会大宮中央総合病院  
医療法人愛生会 愛生会病院  
指扇外科病院  
聖蹟会 埼玉県央病院  
埼玉県済生会栗橋病院  
北里研究所メディカルセンター病院  
ヘリオス会病院  
秩父市立病院  
本庄総合病院  
土屋小児病院  
清水病院  
熊谷生協病院  
三愛会総合病院  
埼玉医療生活協同組合皆野病院  
医療法人社幸会 行田総合病院  
飯能中央病院  
埼玉医科大学附属病院  
さいたま市立病院  
独立行政法人国立病院機構東埼玉病院  
越谷市立病院  
（医社）新座志木中央総合病院  
朝霞台中央総合病院  
防衛医科大学校病院  
（医療）聖仁会 西部総合病院  
（医社）東光会 戸田中央産院  
埼玉協同病院  
大宮医師会 市民病院  
至誠堂富田病院  
（医社）青葉会 新座病院  
（医療）誠壽会 上福岡総合病院  
埼玉よりい病院  
秋谷病院  
三郷中央総合病院  
医療法人社団協友会東川口病院  
埼玉医療生活協同組合羽生病院  
獨協医科大学越谷病院  
東鷲宮病院  
埼玉筑波病院  
志木市立救急市民病院  
医療法人赤心堂病院  
東松山市立市民病院  
医療法人財団石心会狭山病院  
至聖病院

## 12. 千葉県

独立行政法人国立病院機構千葉医療センター  
独立行政法人国立病院機構下志津病院  
千葉大学医学部附属病院  
千葉県立東金病院

千葉県循環器病センター  
千葉市立青葉病院  
国保松戸市立病院  
総合病院国保旭中央病院  
公立長生病院  
組合立国保成東病院  
成田赤十字病院  
千葉県済生会習志野病院  
J F E 健保組合川鉄千葉病院  
（医療）積仁会 島田総合病院  
（医療）鉄蕉会 亀田総合病院  
東京歯科大学市川総合病院  
キッコーマン総合病院  
みつわ台総合病院  
千葉西病院  
医療法人社団聖仁会白井聖仁会病院  
岬病院  
加藤病院  
千葉県子ども病院  
日本医科大学附属千葉北総病院  
国保多古中央病院  
セコムメディック病院  
医療法人鳳生会 成田病院  
医療法人 鎗田病院  
東京女子医科大学附属八千代医療センター  
（医療）聖峰会 岡田病院  
独立行政法人国立病院機構千葉東病院  
千葉社会保険病院  
（医社）千葉健生病院  
医療法人社団聖仁会我孫子聖仁会病院  
田中農協病院  
千葉県千葉リハビリテーションセンター  
（財）明理会新松戸中央総合病院  
聖隷倉倉市民病院  
（医社）上総会 山之内病院  
（医療）公明会 塩田病院  
（医社）勤労者医協船橋二和病院  
（医社）協友会 柏厚生総合病院  
東葛病院  
千葉市立海浜病院  
順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院  
新八柱台病院  
船橋市立医療センター  
（医社）愛友会 流山病院  
医療法人社団保健会谷津保健病院  
帝京大学ちば総合医療センター  
東京慈恵会医科大学附属柏病院

## 13. 東京都

国立がんセンター中央病院  
国立国際医療センター戸山病院  
国立成育医療センター  
独立行政法人国立病院機構東京医療センター  
東京医科大学歯科大学病院  
国際医療福祉大学附属三田病院  
NTT 東日本関東病院  
東京通信病院  
自衛隊中央病院  
都立駒込病院  
都立墨東病院  
都立荏原病院  
都立広尾病院  
東京都立大塚病院  
都立北療育医療センター  
都立清瀬小児病院  
青梅市立総合病院  
日野市立病院  
稲城市立病院  
公立昭和病院  
総合病院大森赤十字病院  
日本赤十字社医療センター  
葛飾赤十字産院  
武蔵野赤十字病院  
東京都済生会中央病院  
公立福生病院  
社保蒲田総合病院  
東京厚生年金病院  
せんぼ東京高輪病院  
虎の門病院

総合病院三宿病院  
公立学校共済組合 関東中央病院  
東京警察病院  
聖路加国際病院  
北里研究所病院  
永寿総合病院  
(社) 至誠会 第二病院  
緑成会病院  
田園調布中央病院  
世田谷中央病院  
成和会 西新井病院  
(医社) 大坪会 北多摩病院  
日本大学駿河台病院  
東京慈恵会医科大学病院  
東京女子医科大学病院  
慶應義塾大学病院  
東京医科大学病院  
日本医科大学病院  
順天堂大学附属順天堂医院  
昭和大学病院  
東邦大学医療センター大橋病院  
東邦大学 大森病院  
東京女子医科大学東医療センター  
日本大学医学部 附属板橋病院  
慈恵医科大学 青戸病院  
慈恵医科大学 附属病院第3病院  
東京電力病院  
小平記念東京日立病院  
東芝病院  
三井記念病院  
母子愛育会総合母子保健センター愛育病院  
(社福) 聖母会 聖母病院  
浅草寺病院  
同愛記念病院  
久我山病院  
東京医療生協組合 中野総合病院  
東京衛生病院  
(社福) 勝楽堂病院  
(社福) 仁生社 江戸川病院  
(社福) 慈生会 慈生会病院  
(社福) 東京都同胞援護会昭島病院  
(社福) 鶴風会東京小児療育病院  
(医社) 時正会 佐々総合病院  
財団法人東京都保健医療公社東部地域病院  
太陽こども病院  
医療法人社団日心会総合病院一心病院  
まつしま産婦人科小児科病院  
財団法人東京都保健医療公社多摩南部地域病院  
独立行政法人国立病院機構災害医療センター  
五葉会ファウンズ産婦人科病院  
都立東大和療育センター  
中林病院  
日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院  
医療法人社団久保田産婦人科病院  
上宮会清瀬上宮病院  
東京臨海病院  
東海大学医学部付属八王子病院  
都立府中療育センター  
(医財) 健康文化会 小豆沢病院  
緑風荘病院  
世田谷下田総合病院  
森本病院  
都立府中病院  
帝京大学医学部附属病院  
(医社) 竹口病院  
(医社) 誠志会 誠志会病院  
日本医科大学 多摩永山病院  
博慈会記念総合病院  
秋津療育園  
(社福) 聖ヨハネ会総合病院桜町病院  
(医社) 板橋中央総合病院  
(医社) 明芳会高島平中央総合病院  
(医社) 水野病院  
東京医科大学八王子医療センター  
国立精神神経センター武蔵病院  
医療法人社団健生会立川相互病院  
東京労災病院  
日本大学医学部附属練馬光が丘病院  
医療法人社団大坪会東和病院

#### 14. 神奈川県

独立行政法人国立病院機構横浜医療センター  
横須賀市立うわまち病院  
独立行政法人国立病院機構相模原病院  
独立行政法人国立病院機構神奈川病院  
厚木市立病院  
神奈川県立足柄上病院  
横浜市立大学附属市民総合医療センター  
横浜市立市民病院  
川崎市立川崎病院  
平塚市民病院  
茅ヶ崎市立病院  
小田原市立病院  
大和市立病院  
横浜市立みなと赤十字病院  
川崎社会保険病院  
横浜船員保険病院  
住友重機械健保組合 浦賀病院  
横浜栄共済病院  
横須賀共済病院  
国公共済連総合病院平塚共済病院  
(財) 神奈川県警友会けいゆう病院  
大口東総合病院  
(医療) 柏堤会 戸塚共立第1病院附属さくらクリニック  
総合川崎臨港病院  
(医社) 亮正会総合高津中央病院  
淵野辺総合病院  
日本医科大学 武蔵小杉病院  
日本鋼管病院  
国際親善総合病院  
総合病院 聖ヨゼフ病院  
(社福) 湘南福祉協会総合病院湘南病院  
総合相模更生病院  
仁厚会病院  
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院  
医療法人産育会堀病院  
西横浜国際総合病院  
湘南鎌倉総合病院  
新横浜母と子の病院  
横浜労災病院  
横浜市立大学医学部附属病院  
自衛隊横須賀病院  
一成会たちばな台クリニック  
重症心身障害児(者)施設横浜療育医療センター  
済生会横浜市東部病院こどもセンター  
聖隷横浜病院  
関東労災病院  
総合病院秦野赤十字病院  
伊勢原協同病院  
国公共済連 虎の門病院分院  
(社団) 日本厚生団長津田厚生総合病院  
総合病院横浜通信病院  
神奈川県立こども医療センター  
藤沢市民病院  
(財) 横浜勤労者福祉協会汐田総合病院  
小澤病院  
昭和大学 藤が丘病院  
聖マリアンナ医科大学病院  
東海大学病院  
北里大学病院  
帝京大学 溝口病院  
相模台病院  
神奈川県立リハビリテーション病院  
済生会 横浜市南部病院  
(医社) 明芳会横浜旭中央総合病院  
神奈川県立汐見台病院  
(医社) 青葉会 牧野記念病院  
横須賀市立市民病院  
(医療) 徳洲会 大和徳洲会病院  
桜ヶ丘中央病院 小児科  
(医療) 徳洲会茅ヶ崎徳洲会総合病院  
(医社) 愛友会 金沢文庫病院  
東海大学医学部附属大磯病院  
(医社) JMA 海老名総合病院  
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院  
医療法人社団緑成会横浜総合病院  
医療法人社団柏綾会綾瀬厚生病院

#### 15. 新潟県

新潟大学医学部附属病院  
新潟県立ガンセンター新潟病院  
新潟県立新発田病院  
新潟県立吉田病院  
新潟県立小出病院  
新潟県立十日町病院  
新潟県立中央病院  
済生会 三条病院  
豊栄病院  
長岡中央総合病院  
栃尾郷病院  
魚沼病院  
上越総合病院  
けいなん病院  
糸魚川総合病院  
佐渡総合病院  
小千谷総合病院  
(医療) 立川総合病院  
済生会新潟第二病院  
共生会中条中央病院  
徳洲会山北徳洲会病院  
新潟市民病院  
聖園病院  
木戸病院  
佐渡市立両津病院  
独立行政法人国立病院機構さいがた病院  
新潟県はまぐみ小児療育センター  
新津医療センター病院  
新潟県立坂町病院  
独立行政法人国立病院機構西新潟中央病院  
白根健生病院  
長岡療育園  
厚生連村上総合病院

#### 16. 富山県

富山市立富山市民病院  
黒部市民病院  
高岡市民病院  
かみいち総合病院  
射水市民病院  
市立砺波総合病院  
富山県済生会 富山病院  
富山県済生会 高岡病院  
厚生連滑川病院  
社会保険 高岡病院  
高木総合病院  
公立南砺中央病院  
南砺市民病院  
独立行政法人国立病院機構富山病院  
富山大学附属病院  
あさひ総合病院  
八尾総合病院  
富山労災病院

#### 17. 石川県

金沢大学医学部附属病院  
石川県立中央病院  
金沢市立病院  
国保小松市民病院  
公立能登総合病院  
加賀市民病院  
市立輪島病院  
金沢赤十字病院  
金沢社会保険病院  
金沢聖霊総合病院  
恵愛病院  
荒木病院  
金沢有松病院  
公立羽咋病院  
浅ノ川総合病院  
能美市立病院  
珠洲市総合病院  
金沢医科大学病院  
石川整肢学園  
金沢西病院  
独立行政法人国立病院機構七尾病院  
独立行政法人国立病院機構石川病院  
公立穴水総合病院

公立宇出津総合病院  
医療法人社団和楽仁辰口芳珠記念病院  
国民健康保険志雄病院

## 18. 福井県

独立行政法人 国立病院機構 福井病院  
公立丹南病院  
福井県立病院  
町立三国病院  
市立敦賀病院  
公立小浜病院  
福井赤十字病院  
福井県済生会病院  
福井社会保険病院  
岩井病院  
福井県小児療育センター  
大滝病院  
新田塚医療福祉センター福井総合病院  
笠原病院  
福井心臓血管センター福井循環器病院  
(医療) 福井愛育病院  
福井大学医学部附属病院

## 19. 山梨県

山梨県立中央病院  
北杜市立甲陽病院  
富士吉田市立病院  
巨摩共立病院  
加納岩総合病院  
都留市立病院  
山梨温泉病院  
桃花会一宮温泉病院  
石和共立病院  
山梨赤十字病院  
山梨厚生病院  
山梨県立あけぼの医療福祉センター  
市川三郷町立病院

## 20. 長野県

独立行政法人国立病院機構長野病院  
独立行政法人国立病院機構松本病院  
信州大学医学部附属病院  
長野県立阿南病院  
長野県立木曾病院  
長野県立須坂病院  
佐久穂町立千曲病院  
諏訪中央病院  
市立岡谷病院  
伊那中央病院  
市立大町総合病院  
諏訪赤十字病院  
下伊那赤十字病院  
長野赤十字病院  
飯山赤十字病院  
J A 長野厚生連 佐久総合病院  
J A 長野厚生連 北信総合病院  
長野厚生農協連 新町病院  
(医療) 慈泉会 相澤病院  
長野中央病院  
長野市民病院  
元山会中村病院  
佐久市立国保浅間総合病院  
独立行政法人国立病院機構中信松本病院  
昭和伊南総合病院  
町立辰野総合病院  
飯田市立病院  
城西病院  
長野県厚生農業組合連合会富士見高原病院  
長野県厚生農業組合連合会篠ノ井総合病院  
医療法人新生病院  
長野県厚生連長野松代総合病院  
健和会病院  
松本協立病院

## 21. 岐阜県

国立病院機構長良医療センター  
市立恵那病院  
岐阜県立岐阜病院  
岐阜県立多治見病院

羽島市民病院  
国保関ヶ原病院  
大垣市民病院  
美濃市立美濃病院  
多治見市民病院  
土岐市立総合病院  
総合病院中津川市民病院  
下呂市立金山病院  
高山赤十字病院  
岐阜県厚生農業協同組合連合会岐北厚生病院  
岐阜県厚生農協連 揖斐厚生病院  
岐阜県厚生農協連 中濃厚生病院  
J A 岐阜厚生連 東濃厚生病院  
岐阜社会保険病院  
公立学校共済組合 東海中央病院  
木沢記念病院  
海津市医師会病院  
岐阜大学医学部附属病院  
国保飛騨市民病院  
松波総合病院  
国保坂下病院  
岐阜赤十字病院  
医療法人社団友愛会岩砂病院第1  
河村病院  
医療法人白水会白川病院  
岐阜県厚生連久美愛病院

## 22. 静岡県

国立病院機構静岡医療センター  
独立行政法人国立病院機構天竜病院  
静岡県立総合病院  
静岡市立静岡病院  
富士市立中央病院  
富士宮市立病院  
静岡市立清水病院  
藤枝市立総合病院  
焼津市立総合病院  
榛原総合病院  
掛川市立総合病院  
磐田市立総合病院  
袋井市立袋井市民病院  
静岡赤十字病院  
裾野赤十字病院  
総合病院 浜松赤十字病院  
静岡済生会総合病院  
総合病院 静岡厚生病院  
総合病院 清水厚生病院  
順天堂大学医学部附属静岡病院  
聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院  
聖隷三方原病院  
市立伊東市民病院  
所記念病院  
国際医療福祉大学熱海病院  
独立行政法人国立病院機構静岡富士病院  
共立湊病院  
静岡県立こども病院  
(社)有隣厚生会 富士病院  
浜松労災病院  
芙蓉協会 聖隷沼津病院  
浜松北病院  
市立御前崎総合病院

## 23. 愛知県

国立病院機構名古屋医療センター  
国立病院機構豊橋医療センター  
名古屋大学病院  
名古屋通信病院  
名古屋市立東市民病院  
名古屋市立城北病院  
名古屋市立城西病院  
名古屋市立大学病院  
名古屋市立守山市民病院  
豊橋市民病院  
岡崎市民病院  
一宮市立市民病院  
公立陶生病院  
半田市立半田病院  
春日井市民病院  
小牧市民病院

豊川市民病院  
津島市民病院  
公立尾陽病院  
西尾市民病院  
蒲郡市民病院  
稲沢市民病院  
常滑市民病院  
尾西市民病院  
名古屋第一赤十字病院  
名古屋第二赤十字病院  
愛知県厚生連 海南病院  
豊田厚生病院 ((旧)加茂病院)  
愛知県厚生農協連 安城更生病院  
愛知県厚生連 江南厚生病院  
愛知県厚生農協連 渥美病院  
社保中京病院  
名鉄病院  
名古屋掖済会病院  
総合大雄会病院  
刈谷総合病院  
(医療) 光生会病院  
東海市民病院  
三菱名古屋病院  
大同病院  
トヨタ記念病院  
聖霊病院  
青和会 中央病院  
清慈会 鈴木病院  
秋田病院  
名南病院  
豊成会竹内病院  
医仁会さくら病院  
愛知県青い鳥医療福祉センター  
足助病院  
三好町民病院  
深谷会富士病院  
岡崎南病院  
あいち小児保健医療総合センター  
名古屋市立緑市民病院  
中部労災病院  
N T T 西日本東海病院  
南生協病院  
藤田保健衛生大学病院  
藤田保健衛生大学坂文種報徳会病院  
愛知医科大学病院  
愛知県心身障害者コロニー中央病院  
(医療) 宝美会 総合青山病院  
(医療) 志聖会 犬山中央病院  
愛知県厚生農協連 尾西病院  
(医療) 済衆館済衆館病院  
愛知県厚生農協連 知多厚生病院  
旭労災病院  
医療法人財団新和会八千代病院  
小嶋病院  
(医療) 来光会 尾州病院  
医療法人青山病院  
医療法人徳洲会名古屋徳洲会総合病院  
安藤病院  
医療法人渡辺病院  
高浜市立病院

## 24. 三重県

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院  
国立病院機構三重中央医療センター  
三重県立総合医療センター  
三重大学医学部附属病院  
桑名市民病院  
市立四日市病院  
市立伊勢総合病院  
尾鷲総合病院  
紀南病院  
山田赤十字病院  
三重県厚生連 松阪中央総合病院  
四日市社会保険病院  
山本総合病院  
岡波総合病院  
三重県厚生連 鈴鹿中央総合病院  
菟野厚生病院  
名張市立病院

大門病院  
三重県厚生連いなべ総合病院  
済生会明和病院  
国立病院機構三重病院  
医療法人ヨナハクリニック  
鈴鹿回生病院

## 25. 滋賀県

大津市民病院  
近江八幡市立総合医療センター  
彦根市立病院  
市立長浜病院  
伊香郡病院組合立湖北総合病院  
公立高島総合病院  
長浜赤十字病院  
済生会滋賀県病院  
社会保険滋賀病院  
（財）豊郷病院  
重症心身障害児施設第一びわこ学園  
東近江市立能登川病院  
大津赤十字志賀病院  
昂会湖東記念病院  
医療法人 マキノ病院  
重症心身障害児施設第二びわこ学園  
独立行政法人国立病院機構滋賀病院  
滋賀医科大学病院  
滋賀県立小児保健医療センター  
野洲病院  
独立行政法人国立病院機構紫香楽病院  
友仁山崎病院

## 26. 京都府

市立福知山市民病院  
独立行政法人国立病院機構舞鶴医療センター  
京都大学医学部附属病院 小児科  
医療法人財団康生会東山武田病院  
京都市立病院  
公立南丹病院  
京都第二赤十字病院  
舞鶴赤十字病院  
済生会 京都府病院  
舞鶴共済病院  
総合病院 日本バプテスト病院  
（社）愛生会 山科病院  
堀川病院  
総合病院 京都南病院  
（社福）宇治病院  
白鳥二岡病院  
綾部市立病院  
府立舞鶴こども療育センター  
足立病院  
亀岡市立病院  
独立行政法人国立病院機構南京都病院  
西京都病院  
独立行政法人国立病院機構宇多野病院  
京都通信病院  
京都武田病院  
宇治武田病院  
京都社会事業財団 京都桂病院  
関西医科大学男山病院  
（医療）育生会 久野病院  
公立山城病院  
（社福）聖ヨゼフ会聖ヨゼフ整肢園  
（医療）医仁会 武田総合病院  
宇治徳洲会病院  
（医療）啓信会 京都きづ川病院  
（医療）医誠会 京都ルネス病院  
金井病院  
社団法人京都保健会京都民医連中央病院  
洛和会 音羽病院  
京都市桃陽病院  
第二岡本総合病院  
医療法人和松会六地藏総合病院  
医聖会京都八幡病院  
医聖会 八幡中央病院  
京都府立医科大学小児疾患研究施設内科部門

## 27. 大阪府

独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター

大阪大学医学部附属病院  
大阪府立北市民病院  
大阪府立十三市民病院  
大阪府立住吉市民病院  
市立池田病院  
市立豊中病院  
市立吹田市民病院  
市立枚方市民病院  
東大阪市立総合病院  
八尾市立病院  
市立岸和田市民病院  
市立貝塚病院  
市立泉佐野病院  
大阪赤十字病院  
済生会 中津病院  
大阪府済生会 泉尾病院  
済生会野江病院  
大阪府済生会 吹田病院  
大阪府済生会 茨木病院  
大阪厚生年金病院  
大阪船員保険病院  
東豊中渡辺病院  
松下記念病院  
大手前病院  
田附興風会 北野病院  
住友病院  
大阪掖済会病院  
日本生命済生会 日生病院  
大阪府警察協会大阪警察病院  
石井記念愛染園 愛染橋病院  
（財）西淀病院  
浅香山病院  
（医療）きっこう会総合病院多根病院  
彰療会 大正病院  
同仁会 耳原総合病院  
宝生会 PL病院  
生長会 府中病院  
大阪医科大学病院  
関西電力病院  
淀川キリスト教病院  
大阪府済生会千里病院  
真美会 中野こども病院  
寺西報恩会 長吉総合病院  
聖和病院  
医誠会摂津医誠会病院  
医療法人第一東和会病院  
医療法人枚岡病院  
錦秀会阪和住吉総合病院  
大阪府立総合医療センター小児救急科  
三友会久松病院  
四天王寺福祉事業団四天王寺和らぎ苑  
医療法人新明会神原病院  
市立柏原病院  
協和会 総合加納病院  
仙養会 北摂総合病院  
近畿大学医学部堺病院  
国立循環器病センター  
大阪北通信病院  
市立松原病院  
和泉市立病院  
高槻赤十字病院  
星ヶ丘厚生年金病院  
愛仁会 千船病院  
清恵会病院  
岸和田徳洲会病院  
（医療）有恵会香里ヶ丘有恵会病院  
愛仁会 高槻病院  
近畿大学医学部附属病院  
北大阪医療生活協同組合照葉の里箕面病院  
信愛会 交野病院  
大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター  
医誠会 城東中央病院  
大道会 森之宮病院  
箕面市立病院  
友紘会総合病院  
信愛会 新生病院  
祐生会 みどりヶ丘病院  
協仁会 小松病院  
生協こども診療所

徳洲会 八尾徳洲会総合病院  
大阪府立母子保健総合医療センター  
阪南市立病院  
同友会 共和病院  
愛賛会浜田病院  
生長会 ベルランド総合病院  
うえだ下田部病院  
大植会葛城病院  
孟仁会 摂南総合病院

## 28. 兵庫県

独立行政法人国立病院機構兵庫中央病院  
関西労災病院  
兵庫県立塚口病院  
兵庫県立西宮病院  
神戸市立医療センター中央市民病院  
明石市立市民病院  
公立豊岡病院  
西宮市立中央病院  
加古川市民病院  
市立川西病院  
市立伊丹病院  
公立八鹿病院  
高砂市民病院  
市立小野市民病院  
赤穂市民病院  
市立西脇病院  
市立芦屋病院  
三田市民病院  
姫路赤十字病院  
済生会兵庫県病院  
社保神戸中央病院  
公学共済近畿中央病院  
甲南病院  
医療法人財団 神戸海星病院  
神戸掖済会病院  
総合病院 昭和病院  
（医療）明和病院  
石川島播磨重工業健保組合播磨病院  
六甲アイランド病院  
西神戸医療センター  
適寿リハビリテーション病院  
樹徳会上ヶ原病院  
淡路平成会東浦平成病院  
公立豊岡病院組合立日高病院  
神戸市立西市民病院  
公立香住総合病院  
神戸赤十字病院  
砂子療育園  
西宮回生病院  
神戸通信病院  
自衛隊 阪神病院  
兵庫県立こども病院  
兵庫医科大学病院  
（医療）尚和会 宝塚第一病院  
総合病院 姫路聖マリア病院  
尼崎医療生協病院  
（医療）協和会協立病院  
（医療）晋真会）ペリタス病院  
（医療）誠仁会 大久保病院  
神鋼加古川病院  
独立行政法人国立病院機構兵庫青野原病院  
公立神崎総合病院  
兵庫県立柏原病院  
東神戸病院  
独立行政法人国立病院機構神戸医療センター  
神戸朝日病院  
神戸徳洲会病院  
神戸アドベンチスト病院  
真真病院  
医療法人 パルモア病院  
宝塚市立病院  
医療法人伯鳳会 赤穂中央病院  
公立浜坂病院

## 29. 奈良県

市立奈良病院  
奈良県立医科大学病院  
大和高田市立病院



町立大淀病院  
済生会 奈良病院  
奈良社会保険病院  
天理よろづ相談所病院  
土庫病院  
奈良県心身障害者リハビリテーションセンター  
国保中央病院  
近畿大学医学部奈良病院  
独立行政法人国立病院機構奈良医療センター  
天理市立病院  
奈良県立奈良病院  
奈良県立五條病院  
奈良県立三室病院  
東生駒病院  
済生会 中和病院  
済生会御所病院  
友誼会病院

### 30. 和歌山県

和歌山県立医科大学病院  
和歌山県立医科大学病院紀北分院  
海南市民病院  
公立那賀病院  
橋本市市民病院  
国保日高総合病院  
社会保険紀南病院  
新宮市立医療センター  
日本赤十字社和歌山医療センター  
白浜はまゆう病院  
富田会富田病院  
独立行政法人国立病院機構和歌山病院  
労働福祉事業団 和歌山労災病院  
和歌山生協病院

### 31. 鳥取県

独立行政法人国立病院機構米子医療センター  
鳥取大学病院  
鳥取県立中央病院  
鳥取市立病院  
岩美町国保岩美病院  
国保智頭病院  
鳥取赤十字病院  
鳥取県済生会 境港総合病院  
博愛病院  
鳥取生協病院  
鳥取医療生協鹿野温泉病院  
南部町国民健康保険西伯病院  
県立総合療育センター  
独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

### 32. 島根県

大田市立病院  
独立行政法人国立病院機構浜田医療センター  
島根県立中央病院  
松江市立病院  
出雲市立総合医療センター  
公立雲南総合病院  
隠岐広域連立隠岐病院  
松江赤十字病院  
益田赤十字病院  
済生会 江津総合病院  
東部島根心身障害医療福祉センター  
吉生会吉岡病院  
安来市立病院  
松江生協病院  
島根大学医学部附属病院  
独立行政法人国立病院機構松江病院  
西部島根心身障害医療福祉センター  
松江記念病院

### 33. 岡山県

総合病院 岡山市立市民病院  
倉敷市立児島市民病院  
笠岡市立市民病院  
市立井原市民病院  
総合病院 岡山赤十字病院  
川崎医学振興財団川崎病院  
(財)倉敷中央病院  
津山中央病院

(医)水と会 水島中央病院  
水島第一病院  
新見中央病院  
総合病院 落合病院  
三菱水島病院  
総合病院 岡山協立病院  
総合病院 水島協同病院  
さとう記念病院  
ペリネイト母と子の病院  
国保町立成羽病院  
総合病院玉野市立玉野市民病院  
同仁会 金光病院  
旭川荘療育センター児童院  
美作中央病院  
川崎医科大学病院  
独立行政法人国立病院機構南岡山医療センター  
重井医学研究所附属病院  
(財)仁厚医学研究所 児島中央病院  
倉敷成人病センター  
倉敷リバーサイド病院  
和香会 倉敷廣済病院  
笠岡中央病院  
岡山労災病院  
倉敷北病院  
長島病院

### 34. 広島県

呉医療センター  
独立行政法人国立病院機構福山医療センター  
独立行政法人国立病院機構東広島医療センター  
広島鉄道病院  
広島通信病院  
県立広島病院  
県立安芸津病院  
社保広島市民病院  
世羅中央病院  
市立三次中央病院  
広島赤十字・原爆病院  
総合病院 三原赤十字病院  
総合病院 庄原赤十字病院  
広島厚生連農協 尾道総合病院  
広島県厚生農協連 吉田総合病院  
広島県厚生農協連 府中総合病院  
呉共済病院  
中国電力株式会社 中電病院  
マツダ株式会社 マツダ病院  
福島生協病院  
頼島産婦人科病院  
里仁会白龍湖病院  
医療法人社団沼南会 沼隈病院  
独立行政法人国立病院機構広島西医療センター  
独立行政法人国立病院機構賀茂精神医療センター  
尾道市立市民病院  
日本鋼管福山病院  
広島市立舟入病院  
福山市立市民病院  
広島医療生協広島共立病院  
広島市立安佐市民病院  
中国労災病院  
県立身体障害者リハビリテーションセンター  
一医療センター  
総合病院三愛  
多田病院  
みのり会 北川病院  
公立みつぎ総合病院  
あかね会 土谷総合病院  
正岡病院  
うすい会 高陽ニュータウン病院  
里仁会 興生総合病院  
福山循環器病院

### 35. 山口県

国立病院機構関門医療センター  
山口大学病院  
山口県立総合医療センター  
下関市立中央病院  
総合病院 光市立病院  
山陽小野田市立小野田市民病院  
共立美東国保病院

済生会 下関総合病院  
周東総合病院  
小郡第一総合病院  
長門総合病院  
社保徳山中央病院  
地域医療支援病院オープンシステム徳山医師会病院  
神徳会 三田尻病院  
山口労災病院  
鼓ヶ浦こども医療福祉センター  
美祢市立病院  
周南記念病院  
至誠会梅田病院  
山口県済生会下関市立豊浦病院  
独立行政法人国立病院機構山陽病院  
元洋会 森山病院  
済生会 山口総合病院  
宇部興産 中央病院  
光市立大和総合病院  
緑山会 鹿野博愛病院  
宇部協立病院

### 36. 徳島県

徳島大学病院  
徳島県立中央病院  
徳島県立三好病院  
徳島市民病院  
町立半田病院  
徳島赤十字病院  
阿南共栄病院  
厚生連 麻植協同病院  
健保鳴門病院  
(医療)原田病院  
阿波病院  
清和会 協立病院  
徳島県立ひのみね整肢医療センターひのみね学園

### 37. 香川県

香川県立津田病院  
香川県立中央病院  
さぬき市民病院  
総合病院 坂出市立病院  
三豊総合病院  
高松赤十字病院  
屋島総合病院  
滝宮総合病院  
社保栗林病院  
麻田総合病院  
高松市民病院  
独立行政法人国立病院機構香川小児病院  
香川県済生会病院  
坂出聖マルチン病院  
香川大学医学部附属病院  
香川町国民健康保険香川病院  
高松平和病院  
大樹会総合病院 回生病院  
慶昭会 おおにし病院  
香川井下病院

### 38. 愛媛県

独立行政法人国立病院機構愛媛病院  
愛媛県立中央病院  
愛媛県立今治病院  
市立八幡浜総合病院  
西予市立野村病院  
市立宇和島病院  
宇和島市立津島病院  
総合病院松山赤十字病院  
西条中央病院  
住友別子病院  
新居浜協立病院  
公立学校共済組合四国中央病院  
愛媛労災病院  
伊予病院  
(財法)積善会附属十全総合病院  
松風病院  
更生会 村上記念病院  
長谷川病院

西条市立周桑病院  
北辰会 まなべ病院  
済生会今治病院  
美須賀病院

### 3 9. 高知県

国立病院機構高知病院  
高知医療センター  
土佐市立土佐市民病院  
佐川町立高北国保病院  
高知赤十字病院  
J A 高知病院  
聖真会 渭南病院  
公世会野市中央病院  
幡多けんみん病院  
(医療) 仁生会 三愛病院  
高知大学医学部附属病院  
高知県立安芸病院

### 4 0. 福岡県

独立行政法人国立病院機構小倉医療センター  
国立病院九州医療センター  
独立行政法人国立病院機構福岡病院  
独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター  
久留米大学医療センター小児科  
九州大学病院  
福岡県立柳川病院  
北九州市立門司病院  
北九州市立医療センター  
北九州市立若松病院  
北九州市立八幡病院  
大牟田市立総合病院  
筑後市立病院  
公立八女総合病院  
福岡赤十字病院  
筑前山田赤十字病院  
福岡県済生会八幡病院  
九州厚生年金病院  
新小倉病院  
浜の町病院  
公立学校共済 九州中央病院  
福岡記念病院  
久留米大学病院  
社保大牟田天領病院  
飯塚病院  
宗像医師会病院  
宗像水光会総合病院  
八女中央病院  
九州労災病院  
国立病院九州がんセンター  
自衛隊 福岡病院  
聖ヨゼフ園  
慈恵曾根病院  
大牟田記念病院  
正信会 水戸病院  
ゆうかり医療療育センター  
産業医科大学病院  
福岡大学病院  
北九州総合病院  
北九州市立総合療育センター  
福岡市立子ども病院・感染症センター感染症科  
米の山病院  
廣徳会 岡部病院  
徳洲会 福岡徳洲会病院  
太刀洗病院  
丸山病院  
高邦会 高木病院  
健和会 大手町病院  
牧山中央病院  
甘木朝倉医師会病院  
西野病院  
牟田病院  
水巻共立病院  
健和会京町病院  
福岡県立粕屋新光園  
福岡大学筑紫病院

相生会 宮田病院

### 4 1. 佐賀県

独立行政法人国立病院機構佐賀病院  
独立行政法人国立病院機構嬉野医療センター  
伊万里市立市民病院  
西有田共立病院  
唐津赤十字病院  
佐賀社会保険病院  
佐賀整肢学園子ども発達医療センター  
古賀小児科内科病院  
医療法人社団 敬愛会 佐賀記念病院  
独立行政法人国立病院機構東佐賀病院  
独立行政法人国立病院機構肥前済神医療センター  
佐賀医科大学病院  
順天堂病院  
至慈会 高島病院

### 4 2. 長崎県

国立病院長崎医療センター  
長崎大学病院  
長崎市立市民病院  
佐世保市立総合病院  
壱岐公立病院  
佐世保共済病院  
長崎記念病院  
(医療) 白十字会佐世保中央病院  
国保平戸市民病院  
医療法人医理会 柿添病院  
独立行政法人国立病院機構長崎病院  
長崎県立島原病院  
長崎県済生会病院  
田上病院  
平成会 女の都病院  
赤木病院  
上五島病院

### 4 3. 熊本県

独立行政法人国立病院機構熊本医療センター  
独立行政法人国立病院機構熊本再春荘病院  
熊本大学医学部附属病院  
自衛隊熊本病院  
熊本市市民病院(小児科)  
阿蘇中央病院  
球磨郡公立多良木病院  
上天草総合病院  
熊本赤十字病院  
八代総合病院  
熊本労災病院  
天草慈恵病院  
愛育会 福田病院  
くわみず病院  
熊本循環器科病院  
杉村会杉村病院  
天草地域医療センター  
谷田会谷田病院  
聖和会有明成仁病院  
八代市医師会立病院  
黎明会宇賀岳病院  
芦北学園発達医療センター  
熊本地域医療センター  
公立玉名中央病院  
独立行政法人国立病院機構菊池病院  
坂梨会 阿蘇温泉病院  
丸田病院  
はまゆう療育園  
熊本託麻台病院  
御幸病院  
玉名地域保健医療センター  
菊池中央病院

### 4 4. 大分県

別府医療センター  
独立行政法人国立病院機構西別府病院  
中津市立中津市民病院

国東市民病院  
杵築市立山香病院  
津久見市医師会立津久見中央病院  
大分子ども病院  
大分県済生会日田病院  
別府発達医療センター  
大分市医師会立アルメイダ病院  
大分大学医学部附属病院  
大分健生病院  
健保南海病院  
西田病院  
医療法人財団天心堂へつぎ病院  
大分岡病院  
大分県立三重病院

### 4 5. 宮崎県

県立宮崎病院  
小林市立市民病院  
高千穂町国保病院  
育生会井上病院  
県立子ども療育センター  
宮崎生協病院  
宏仁会海老原総合病院  
宮崎市小児診療所  
独立行政法人国立病院機構宮崎病院  
独立行政法人国立病院機構宮崎東病院  
宮崎大学附属病院  
宮崎県済生会日向病院

### 4 6. 鹿児島県

国立病院鹿児島医療センター  
独立行政法人国立病院機構指宿病院  
鹿児島大学病院  
鹿児島市立病院  
出水総合医療センター  
八反丸病院  
オレンジ学園  
中村温泉病院  
鹿児島子ども病院  
国分生協病院  
沖永良部徳洲会病院  
医療法人 義順顕彰会田上病院  
徳洲会屋久島徳洲会病院  
今村病院  
独立行政法人国立病院機構南九州病院  
総合病院鹿児島生協病院  
やまびこ医療福祉センター  
済生会 川内病院  
鹿児島市医師会病院  
県立北薩病院  
徳洲会 鹿児島徳洲会病院  
財団法人今給黎総合病院  
薩摩郡医師会病院

### 4 7. 沖縄県

北部病院  
海邦病院  
上村病院  
医療法人 友愛会 南部病院  
県立北部病院  
琉球大学病院  
県立八重山病院  
沖縄協同病院  
敬愛会 中頭病院  
那覇市立病院  
(医療) おもと会 大浜第1病院  
沖縄整肢療護園  
友愛会 豊見城中央病院  
もとぶ野毛病院  
中部徳洲会病院  
かりゆし会ハートライフ病院  
中部協同病院  
潮平病院  
沖縄療育園  
医療法人信和会沖縄第一病院

記載につきましては、細心の注意を払いましたが、誤りがある場合はどうぞご容赦ください。

# 川崎病調査票(第20回全国調査)

お願い

- 平成19年1月1日～平成20年12月31日の2年間に発症し貴施設を受診した患者全員について記入して下さい。
- 症例がない場合も本調査票のQ1.「施設に関する質問」をご記入の上、ご返送下さい。
- 他施設より紹介された患者、他施設へ紹介した患者も含めます。

一住所、電話番号の誤りは朱書にてご訂正下さい。

返送先

〒329-0498  
栃木県下野市薬師寺3311-1  
自治医科大学公衆衛生学教室気付  
川崎病全国疫学調査事務局 宛  
電話：0285-44-6192, 0285-58-7338  
ファクシミリ：0285-44-7217  
e-mail: epikd@jichi.ac.jp

主治医(代表者)ご芳名		平成20年12月 川崎病全国疫学調査事務局作成		診断の確実度の定義 1 確実A:6つの主要症状のうち5つ以上の症状あり 2 確実B:4つの症状しかないが冠動脈瘤(拡大)を伴う 3 容疑:診断の手引きに合致しないが疑いがある											
メールアドレス															
記入しない↓	患者氏名 イニシアル 姓・名の順に記入する	発病時患者住所 番地は省略する	性	出生年月日	初診年月日 初診年は1か2に○をつける	初診時 病日 今回の川崎病の症状が最初に出現した日を第1病日とする	診断の 確実度	治療(貴院で投与した分のみ記載する)		今回の 発症	同胞例	両親の 川崎病 既往歴	心障害 該当するものすべてに○をつける 巨大瘤は直径8mm以上の冠動脈瘤をいう		心臓以外の合併症 あてはまるものすべてに○をつける 肝障害は入院時のAST(GOT)、ALT(GPT)ともに50IU/L以上と定義する
								ガンマグロブリン (GG) 初回投与	その他の治療 あてはまるものすべてを記載する				急性期 (1か月以内)	後遺症 (1か月以降)	
		都道府県	1 男	平成____年	1 平成19年	初診時	1 確実A	1 なし 2 あり	1 GG追加投与 投与開始____病日 追加総投与量____mg/kg	1 初発	1 なし	1 なし	1 なし 2 巨大瘤 3 瘤	1 関節痛または関節炎 2 無菌性髄膜炎	
		市郡	2 女	____月____日	2 平成20年	____病日	2 確実B	初回投与開始 ____病日	2 ステロイド投与 投与開始____病日	2 再発	2 あり (父・母)	2 あり (父・母)	4 拡大 5 狭窄	3 肝障害(上記を参照) 4 胆嚢腫大	
		区町村					3 容疑 主要症状の数 ( )	1日____mg/kg × ____日	3 Infliximab投与 投与開始____病日		3 不明	3 不明	6 心筋梗塞 7 弁膜病変	5 麻痺性イレウス 6 顔面神経麻痺	
									4 免疫抑制剤投与 (薬剤名)____				7 弁膜病変	7 DIC	

★死亡ありはQ2にご記入下さい

## Q1.「施設に関する質問」(本調査票を2枚以上使用の場合は1枚目にご記入下さい)

1. 貴院のベッド数はいくつですか。	病院全体 _____ 床	小児科一般病床 _____ 床
2. 貴院の小児科医は何人ですか。	常勤小児科医 _____ 人	非常勤小児科医 _____ 人
そのうち循環器を専門とする小児科医	常勤小児科医 _____ 人	非常勤小児科医 _____ 人
3. 貴院では川崎病患者に対するガンマグロブリンの基本的な投与方式を決めていますか。	1 はい(____mg/kg×____日間) 2 いいえ	

## Q2.「死亡例に関する質問」(今回の報告のみでなく、前回までの調査で生存として報告され、その後死亡した例も含めてご記入下さい)

	患者氏名(イニシアル)	性	出生年月日	川崎病初診年月日	死亡年月日	剖検の有無	死亡原因	剖検の施設名など
1 今回の報告例	姓 名	1 男	昭・平____年	昭・平____年	平成____年	1 なし		
2 前回までの報告例		2 女	____月____日	____月____日	____月____日	2 あり		
1 今回の報告例	姓 名	1 男	昭・平____年	昭・平____年	平成____年	1 なし		
2 前回までの報告例		2 女	____月____日	____月____日	____月____日	2 あり		